

道路占用工事要綱

制 定	昭和 41 年 7 月 1 日
改 正	昭和 54 年 12 月 1 日
改 正	平成 3 年 11 月 1 日
改 正	平成 17 年 2 月 1 日
改 正	平成 28 年 3 月 1 日
改 正	平成 31 年 4 月 17 日
改 正	令和 3 年 7 月 5 日

(令和 3 年要綱第 204 号)

第 1 総 則

1. この要綱は、道路の占用に伴い道路を掘削し、復旧する場合の基準を定め、もって道路構造の保全を図ることを目的とする。
2. 適用の範囲は、区が管理する道路とする。
3. 舗装の種別は、別記 6 に掲げるところによる。

第 2 遵守事項

1. 占用者は、道路占用許可申請書に添付した図書のとおり、施工しなければならない。
2. 占用者は、事前に近隣住民および道路等利用者に対し、十分な PR を行うこと。
3. 占用者は、道路復旧材料の準備について本区係員の確認を受け、かつ掘削位置および工法等について現場立会いにより、その指示を受け工事に着手すること。
4. 掘削工事は、1 日以内に完了できる範囲とすること。
5. 占用者は、工事期間中、現場の見回りを徹底し、維持管理に努めること。
6. 工事施工に際し、工事現場内に工事標示板等を設置するとともに、所轄警察署の道路使用許可書に基づいた保安対策を講じること。
7. 復旧後、新規舗装および既設舗装の路面に別記 10 に掲げるマークを必ず標示すること。(油性ペイント使用)
なお、仮復旧中は既設舗装面に標示すること。
8. 工事は、粗雑にならないように行うこと。
9. 工事施工に関する施工管理等については、別に定めるものとする。

第3 掘削工事

1. 着手届の提出

占有者は工事着手前に、電子申請システム利用者は電子申請により、その他の占有者は別記11に定める着手届を提出すること。

2. 大規模掘削の範囲

掘削延長が20mを超えるか、掘削面積が20㎡を超える工事。ただし、次の場合は、掘削延長、掘削面積にかかわらず大規模掘削扱いとする。

- (1) 道路に対して縦断方向に掘削する場合（本管・支管の工事）
- (2) 事故調査、埋設物調査、地質調査等のための試掘工事で合計掘削面積が10㎡を超える場合。
- (3) その他道路管理者が指示する場合。

3. 小規模掘削の範囲

掘削延長が20m以下、または掘削面積が20㎡以下の工事。

4. 掘削の制限

新設または改修後の道路においては、施工年度を含み、翌年度から5年間は掘削をしてはならない。（以下この道路を「規制路線」という。）制限期間が過ぎても道路が良好な状態の場合は規制路線に準ずる。ただし、次に掲げる場合において、道路管理者が特に必要があると認めたときは、この限りではない。

- (1) 災害の防止、事故の復旧等一般の危険を防止するために掘削する場合
- (2) 沿道建築物に対する引込管線路のために掘削する場合
- (3) その他公共事業のため、区長がやむを得ないと認める場合

5. 新規舗装道路掘削規制解除願

規制路線において、やむを得ず掘削する必要がある場合、新規舗装道路掘削規制解除願を提出し、道路管理者の承認を得ること。ただし、規制路線に準ずる道路の場合は新規舗装道路掘削規制解除願は不要とする。

6. 掘削幅の規制

車道および歩道の掘削幅は、必要最小限の幅（安全に作業を行うことができ、かつ埋戻しおよび舗装復旧が支障なく施工できる幅をいう。）とする。なお、ブロック等舗装の場合には、1個（枚）を単位とする。

第4 復旧工事

1. 自費復旧と受託復旧の適用

占用工事に伴う企業の復旧については原則として自費復旧とする。ただし、道路管理者が指定する路線については受託復旧とする。

2. 復旧工事の時期

復旧工事は、占用物件の埋設が完了した後、直ちに復旧工事（即時復旧）を行わなければならない。ただし、復旧工事の施行上等の事情により即時復旧工事ができないものと道路管理者が認めたときは、この限りでない。その場合は、別記8復旧工法にて仮復旧を行い、本復旧工事までの間その維持修繕を行なうこと。

3. 復旧工事施工方法

(1) 自費復旧の場合

占有者は道路管理者の指示する別記7記載図面による復旧工法にて舗装を行うこと。

(2) 受託復旧の場合

占有者は道路管理者の指示する別記9記載図面による復旧工法にて仮舗装を行うこと。

(3) 復旧範囲

復旧幅は、舗装の種別にかかわらず原則として片側0.3mを掘削幅に加えたものとし、別記4記載図面のとおりとする。ただし、自費復旧の場合その工事に起因して舗装に影響があると認めた場合は、道路管理者の指示する範囲を復旧するものとする。

(4) 埋戻し方法および材料

1) 埋戻しは、ランマー等の締固め機械を使用し、敷きならし厚0.3mごとに、第5に定める基準密度となるよう締固めを行うものとする。また、占用物件の周囲とその上端0.1mまでは、占用物件の保護等を考慮し、十分締固めを行うものとする。

2) 埋戻し材料は、下記のとおりとする。

ア 埋戻しの材料は、別記7に定めるものとし、しゃ断層用砂、埋戻し用砂、良質土、改良土（第一種改良土および第二種改良土をいう。以下同じ。）、流動化処理土を使用するものとする。ただし、改良土および流動化処理土の使用範囲等については、道路管理者と協議するものとする。

イ 埋戻しに使用することができる良質土・改良土の品質および品質管理基準は「土木材料仕様書」および道路管理者が別途定めるものによることとする。

ウ 埋戻しに使用する砂（しゃ断層用および埋戻し用）の材料規格は、「土木材料仕様書」による。

3) 施工管理

施工管理は、原則として、次の試験および確認により行うものとする。ただし、小規模工事については、道路管理者の指示により、試験を省略することができる。

ア 試験

(ア) 試験項目、目標値および試験頻度

別記1による

(イ) 試験方法

別記2による

イ 確認

確認は、写真により行うものとする。

なお、写真は、「工事記録写真撮影基準」（東京都建設局）に準拠し、施工および試験の状況が十分確認できるものとする。

(5) 路盤先行工事

復旧工事の路盤築造は、掘削幅内を復旧範囲として路盤先行をすることができるものとする。

(6) 舗装切断

復旧工事における舗装切断は、別記5に定める「斜めカット目地工法」を使用する。ただし、道路管理者が指示した路線についてはこの限りではない。

(7) 舗装工および舗装材料

舗装構造は別記7に定めるものとし、施工については「東京都土木工事標準仕様書」を準用し、復旧工事に使用する材料規格は、「土木材料仕様書」を準用する。また、細粒と透水性舗装（仮舗装の密粒は除く）の場合および小規模工事の表層については、原則として再生材を使用することができない。

(8) 施工管理記録等の提出

1) 占有者は、材料の搬入前に、品質証明書を道路管理者に提出するものとする。ただし、道路管理者が提出の省略を認めた場合は、この限りではない。

2) 占有者は、埋戻しが終了したとき、または道路管理者からの要求があった場合は、速やかに次の記録を提出するものとする。ただし、道路管理者が提出の省略を認めた場合は、この限りではない。

ア 品質管理記録

イ 施工管理記録

第5 検 査

占有者は、復旧工事について次の検査を受け、合格しなければならない。

1. 埋戻し復旧の検査

占有者は、舗装工事を行う前に、写真および施工管理記録等の提出資料により、埋戻し復旧の検査を受けるものとし、下記試験項目の合格判定値を満たしたときに合格とする。ただし、小規模工事については、道路管理者の指示により、写真等による検査とすることができる。また、道路管理者が必要と認めたときは上記のほか、平板載荷試験またはC B R試験を行うものとする。

(1) 試験項目および合格判定値

ア シャ断層用砂および埋戻し用砂

試験項目	合格判定値
土研式円錐貫入試験	0.1mの貫入に要する打撃回数が16回以上

イ 良質土および改良土

試験項目	合格判定値
締固め度	90%以上

(2) 判定値の求め方

別記3による

(3) 平板載荷試験およびC B R試験の合格値

試験項目	合格判定値
平板載荷試験	路床面で $K30 \geq 4.5 \text{kg/cm}^2$
C B R試験	路床面で設計C B Rが3%以上

2. 舗装完了の検査

表層材料、路盤材料、舗装厚、密度および平坦性等については、確認できる証明書、供試体および写真等の資料を道路管理者に提出し、舗装完了の検査を受けるものとする。ただし、小規模掘削の舗装完了検査は道路管理者の指示する箇所とし、一部の資料提出を省略のうえ、検査を受けることができる。

第6 復旧工事完了後の措置

1. 責任期間

占有者は、工事完了立会いの日から12か月間（自費復旧、受託復旧および舗装の種類にかかわらず）復旧箇所の保全および修繕を行い、工事に起因する事故の防止に努め、期間経過前に再度立会いを求め責任完了の確認を受けること。

なお、工事完了の立会いは、適当な区間に分割して行うことができる。

2. 道路に与えた損傷等の措置

占有工事および仮舗装の期間中ならびに占有工事完了後において、占有工事の施行に起因して道路に与えた損傷または第三者に与えた損害については、占有者が措置しなければならない。

3. 占有者が履行すべき事項の代行措置

責任期間中に道路管理者が復旧箇所の修繕等を指示した場合は、その指示によるものとする。占有者が指示事項を履行しない場合、または道路管理者が不十分と認めた場合には道路管理者が措置し、その費用は占有者が負担しなければならない。

4. 竣工届

検査完了後、速やかに「道路占有工事竣工届」を作成し、本区係員に提出を行い確認後、電子申請システム利用者は電子申請システムにより、その他の占有者は別記12の「自費受託復旧竣工届」を提出すること。ただし、小規模のものについては、一括処理することができる。

5. 監督事務費等

占有者は、掘削復旧工事完了の検査に合格したときは、次により監督事務費等を負担しなければならない。

(1) 自費復旧

「道路掘削復旧費徴収単価表」により算出した工事費の6%（道路掘削復旧工事監督事務費徴収単価表に定める額）

(2) 受託復旧

「道路掘削復旧費徴収単価表」により算出した工事費の10%

第7 その他

この要綱に掲げた以外の事項については、道路管理者の指示によるものとする。

別記1 試験項目、目標値および試験頻度

(1) しゃ断層用砂および埋戻し用砂

試験項目	目標値	試験頻度
土研式円錐貫入試験	0.1mの貫入に要する打撃回数が16回以上	1工事につき5箇所以上。ただし、工事が5日以上にまたがる場合は、1日1箇所以上

(2) 良質土および改良土

試験項目	目標値	試験頻度
締固め度	90%以上	1箇所当たり敷きならし厚0.3mごと1工事につき5箇所以上。ただし、工事が5日以上にまたがる場合は、1日1箇所以上

(注) 1. 良質土の締固め度を求めるための基準密度は、同一土質について3個以上のCBR試験の水浸前における乾燥密度の平均値とする。

2. 改良土の締固め度を求めるための基準密度は、最近10週間（試験頻度は週1回以上）の品質管理データを用いて、それらの最大乾燥密度の平均値からその標準偏差を減じた値（ $\bar{X} - \sigma_{n-1}$ ）とする。

別記2 試験方法

(1) しゃ断層用砂および埋戻し用砂

試験項目	試験方法
土研式円錐貫入試験	「道路工事設計基準」（東京都建設局）に準拠する。

(2) 良質土および改良土

試験項目		試験方法
締固め度	基準密度	乾燥密度（改良土のとき） CBR試験方法の水浸前における乾燥密度 CBR試験方法は自然含水比、3層67回4日水浸着生（舗装試験法便覧）
		最大乾燥密度（改良土のとき） 突固めによる土の締固め試験（JIS A 1210）
	現場密度	次のいずれかの試験方法による 1. RIによる密度の測定方法（舗装試験法便覧） なお、RIを用いるときは自動記録紙に記入すること。 2. 砂置換法による路床の密度の測定方法（舗装試験法便覧） 3. 砂置換法による土の密度試験方法（JIS A 1214） 4. その他、モールド等を使用した密度測定

別記3 判定値の求め方

(1) 施工管理記録のデータ数が14個以上のとき

ア. 検査用データは、施工管理記録から無作為に14個抽出する。

イ. 検査用データは、それぞれ次の値を用いる。

(ア) 土研式円錐貫入試験のとき

深さ0.1mごとの貫入に要する打撃回数の深度方向の平均値。

(イ) 締固め度のとき

敷きならし厚0.3mごとの深度方向の平均値。

ウ. 判定値は、次式により算出する。

$$\text{判定値} = \bar{X} - K \cdot \sigma_{n-1}$$

\bar{X} : 検査用データの平均値

K : 合格判定係数 (K=0.94)

σ_{n-1} : 検査用データの標準偏差

(2) 施工管理記録データ数が5個以上14個未満のとき

判定値は、施工管理記録の全データを検査用データとし、(1)と同様に算出する。

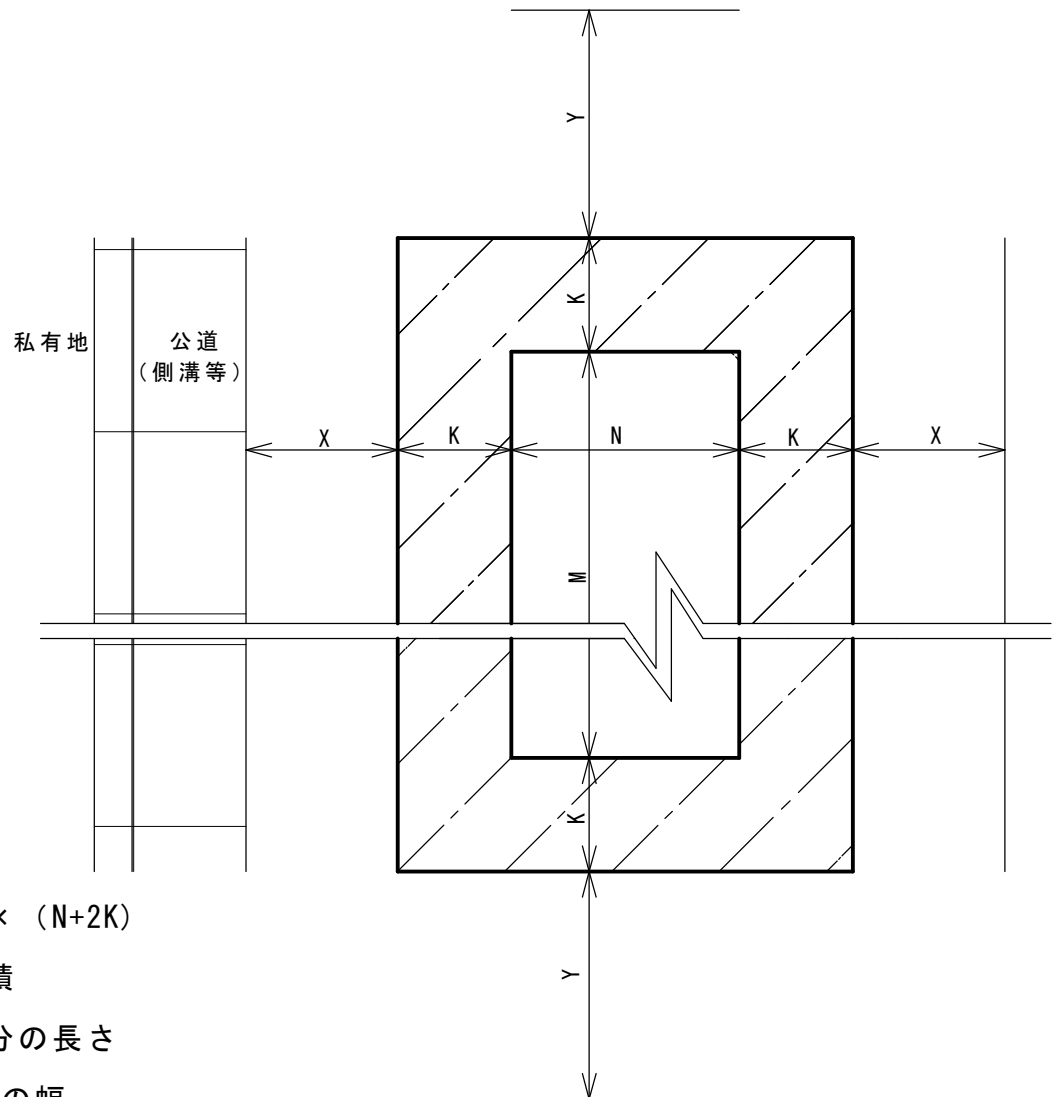
ただし、このときの合格基準値は次によるものとする。

合格判定値 K

検査用データ数	合格判定係数
5	1.37
6	1.25
7	1.17
8	1.12
9	1.06
10	1.03
11	1.01
12	0.98
13	0.97
14	0.94

別記 4

復 旧 範 囲



$$S = (M + 2K) \times (N + 2K)$$

S : 復旧面積

M : 掘削部分の長さ

N : 掘削部分の幅

K : 影響部分は原則として30cmとする。

XY : Kより路肩および施工目地までの距離 (残余)

(アスコン舗装の場合)

90cm未満は表層および基層打替とする。ただし、点掘りについては原則として復旧部分相互間の距離が3m未満のときは、表層および基層打替とする。

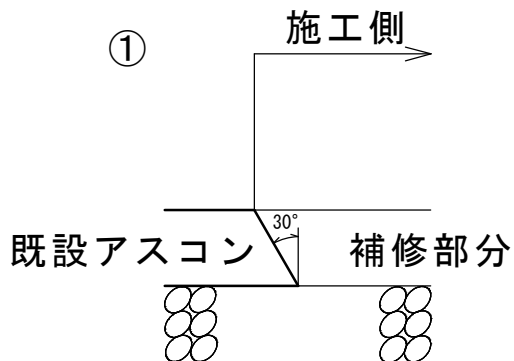
(セメコン舗装の場合)

舗装版最少が2m×2mに満たない場合は、各々2m×2mとする。
ただし、版一区画の残余幅が2m以上確保できない場合、全幅員を復旧幅とする。

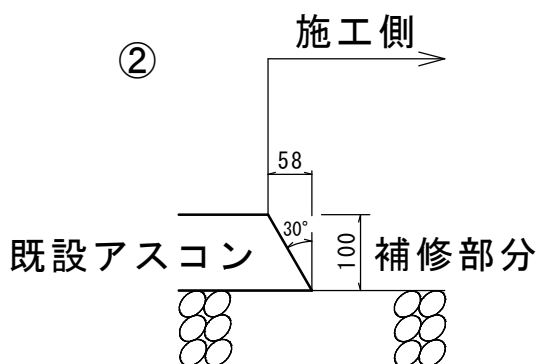
別記 5

斜めカット目地工

(例) 既設舗装厚10cmの場合



補修箇所の舗装を掘削する前に斜めカットを行うこと。

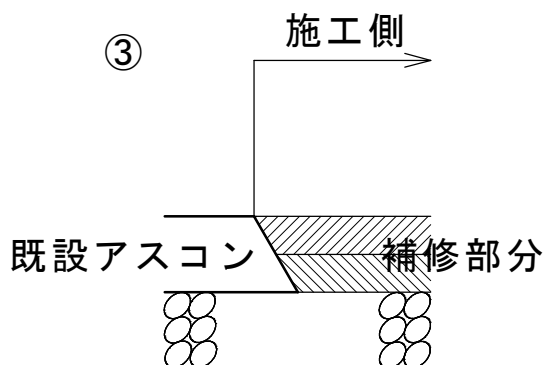


(施工手順)

準備

1. 斜めカット用コンクリートカッターを使用し、カット面が 30° となるようにカットする。

舗 設



1. カットした部分をバーナーで充分加熱する。
2. 接着面にタックコートを行う。

車道

(1) アスファルトコンクリート舗装	25型
(2) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め舗装）	35型
(3) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め舗装）	50型
(4) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め舗装）	60型
(5) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め舗装）	70型
(6) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め舗装）	80型
(7) アスファルトコンクリート舗装	90型
(8) アスファルトコンクリート舗装（透水性）	40型
(9) セメントコンクリート舗装（真空工法）	40型
(10) 半たわみ性舗装	60型
(11) 半たわみ性舗装	70型
(12) 半たわみ性舗装	80型
(13) 半たわみ性舗装	90型

歩道

(14) 歩道アスファルトコンクリート舗装（透水性）	19型
(15) 歩道アスファルトコンクリート舗装（切下げ部）	35型
(16) セメントコンクリート舗装（切下げ部）	40型

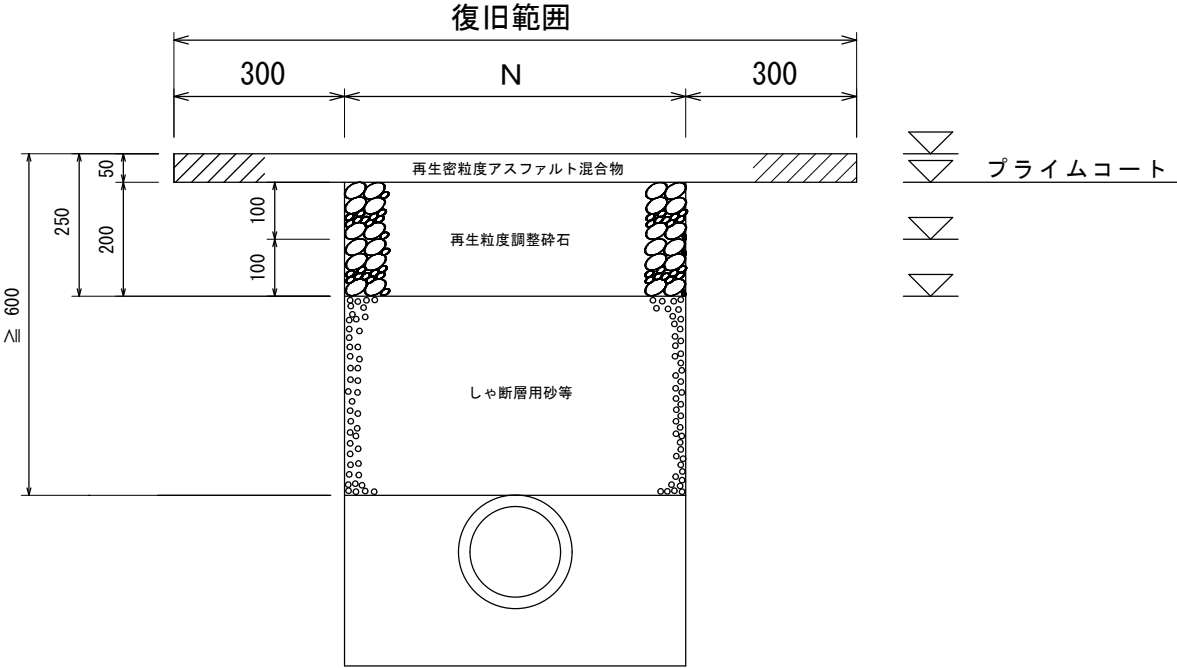
その他

(17) その他特殊舗装（協議路線）	
--------------------	--

別記 7 埋戻しおよび路盤・表・基層の築造工法図

表層が開粒アスコン、その他特殊舗装については別途協議すること。

(1) アスファルトコンクリート舗装 25型



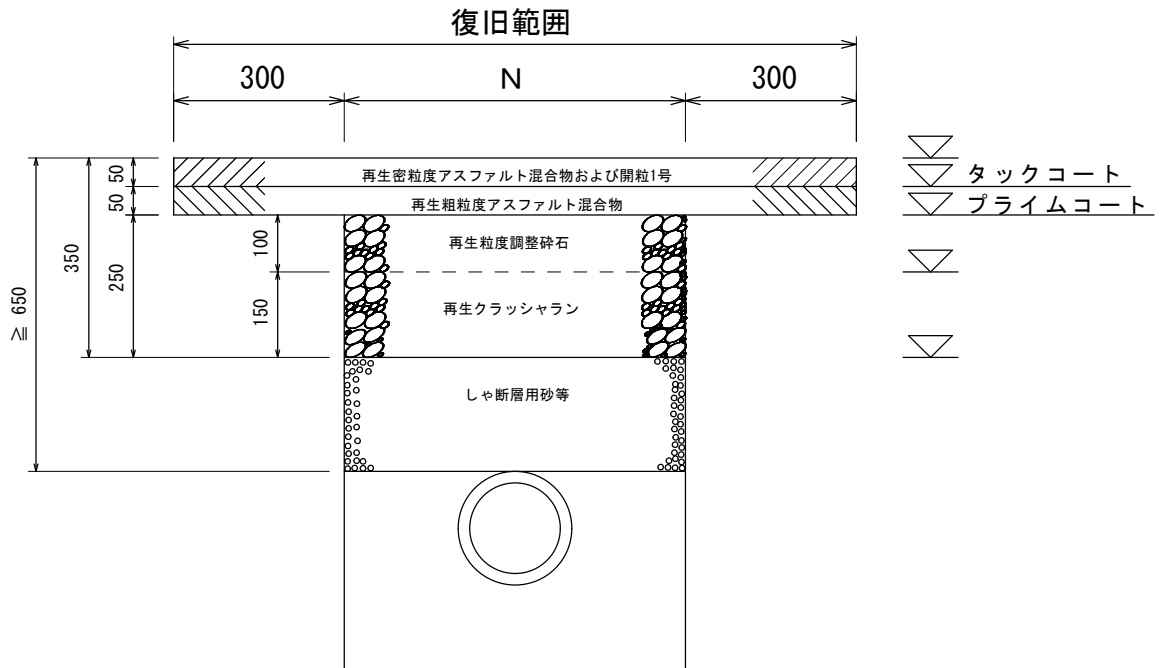
材 料 表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.2000	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

路盤は、再生粒度調整碎石を2層に敷きならし、転圧して厚さ20cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断層用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(2) アスファルトコンクリート舗装35型・アスファルトコンクリート舗装35型(すべり止め舗装)



材料表 (1 m ² 当り)					
工種	材 料		形状寸法	数量	単位
表層	再生アスファルト混合物		R密粒	0.1175	t
			開粒1号	0.0970	
	アスファルト乳剤	ゴム入りアスファルト乳剤	PK-4 PKR 1~2	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物		R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤		PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石		RM-40	0.1000	m ³
	再生クラッシュラン		RC-40	0.1500	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

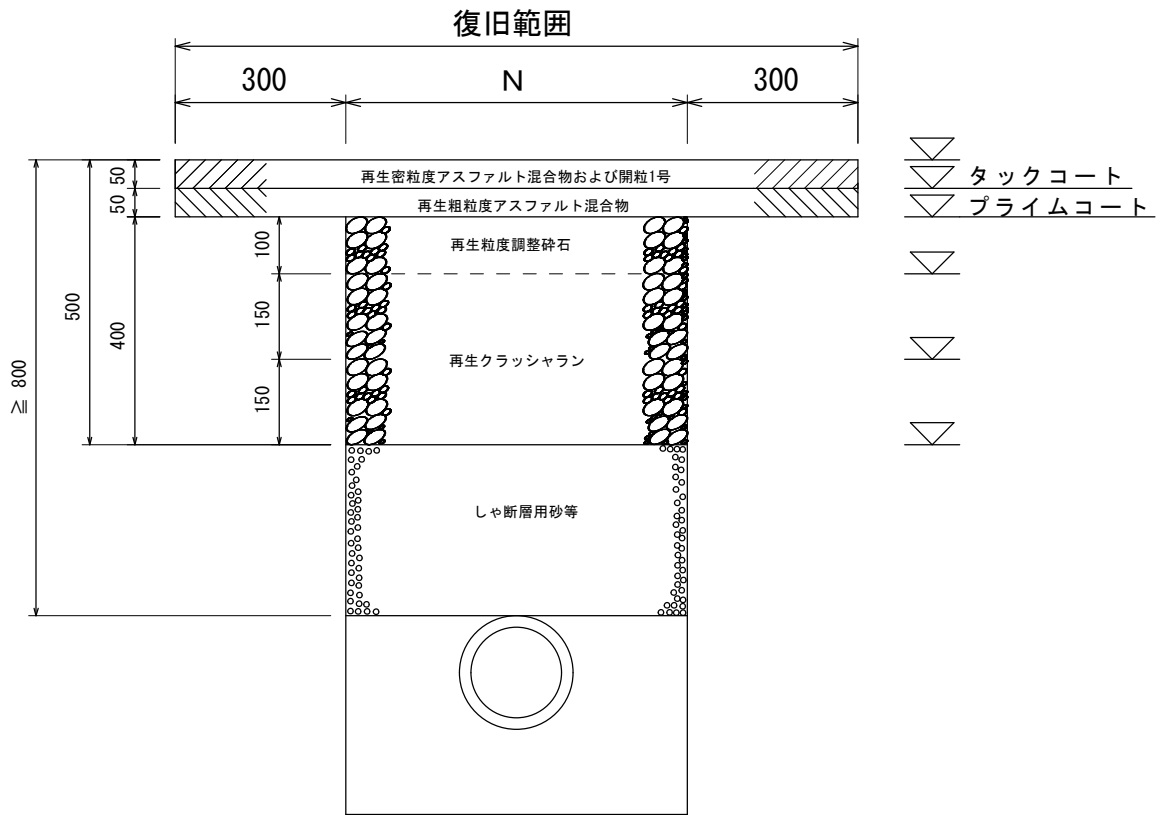
基層は再生粗粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシュランを敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(3) アスファルトコンクリート舗装50型・アスファルトコンクリート舗装50型(すべり止め舗装)



材料表 (1 m ² 当り)					
工種	材 料		形状寸法	数量	単位
表層	再生アスファルト混合物		R密粒	0.1175	t
			開粒1号	0.0970	
	アスファルト乳剤	ゴム入りアスファルト乳剤	PK-4 PKR 1~2	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物		R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤		PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石		RM-40	0.1000	m ³
	再生クラッシュラン		RC-40	0.3000	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

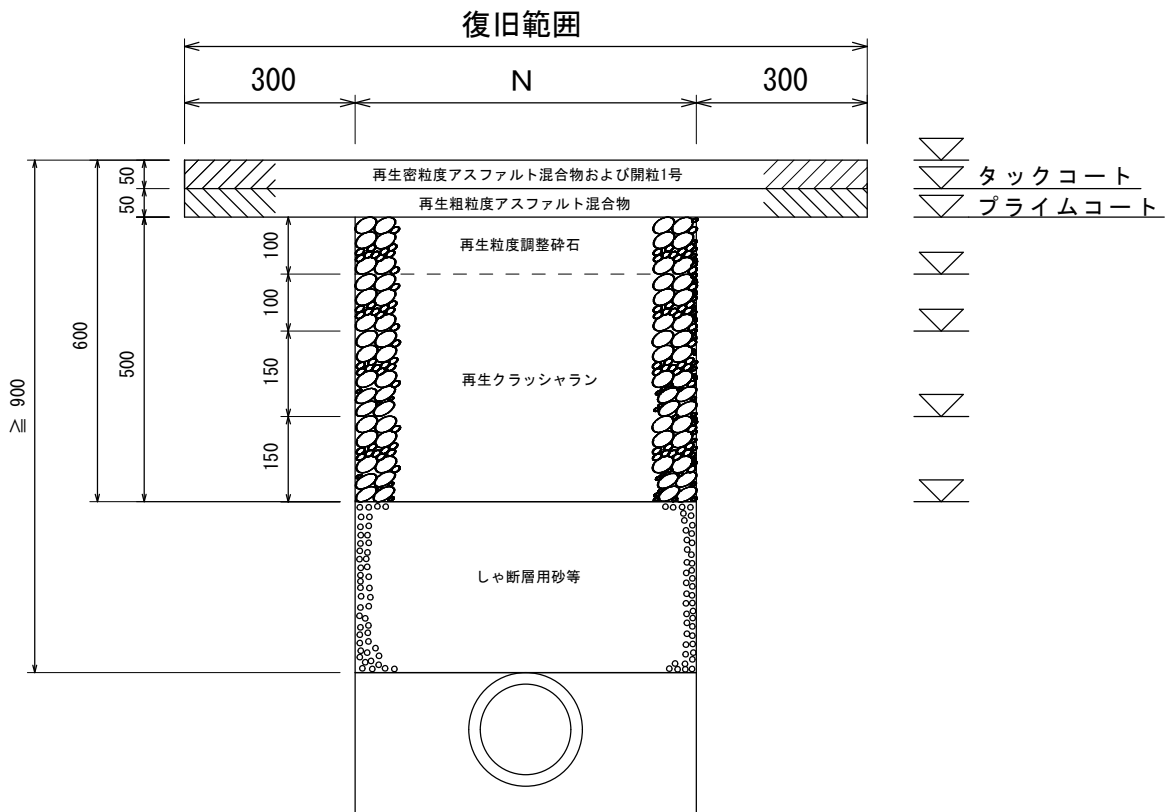
基層は再生粗粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシュランを2層に敷均し、転圧して厚さ30cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(4) アスファルトコンクリート舗装60型・アスファルトコンクリート舗装60型(すべり止め舗装)



材料表 (1 m ² 当り)						
工種	材 料	形状寸法	数量	単位		
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t		
		開粒1号	0.0970			
	アスファルト乳剤	ゴム入りアスファルト乳剤	PK-4	PKR 1~2	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t		
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L		
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1000	m ³		
	再生クラッシュラン	RC-40	0.4000	m ³		

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

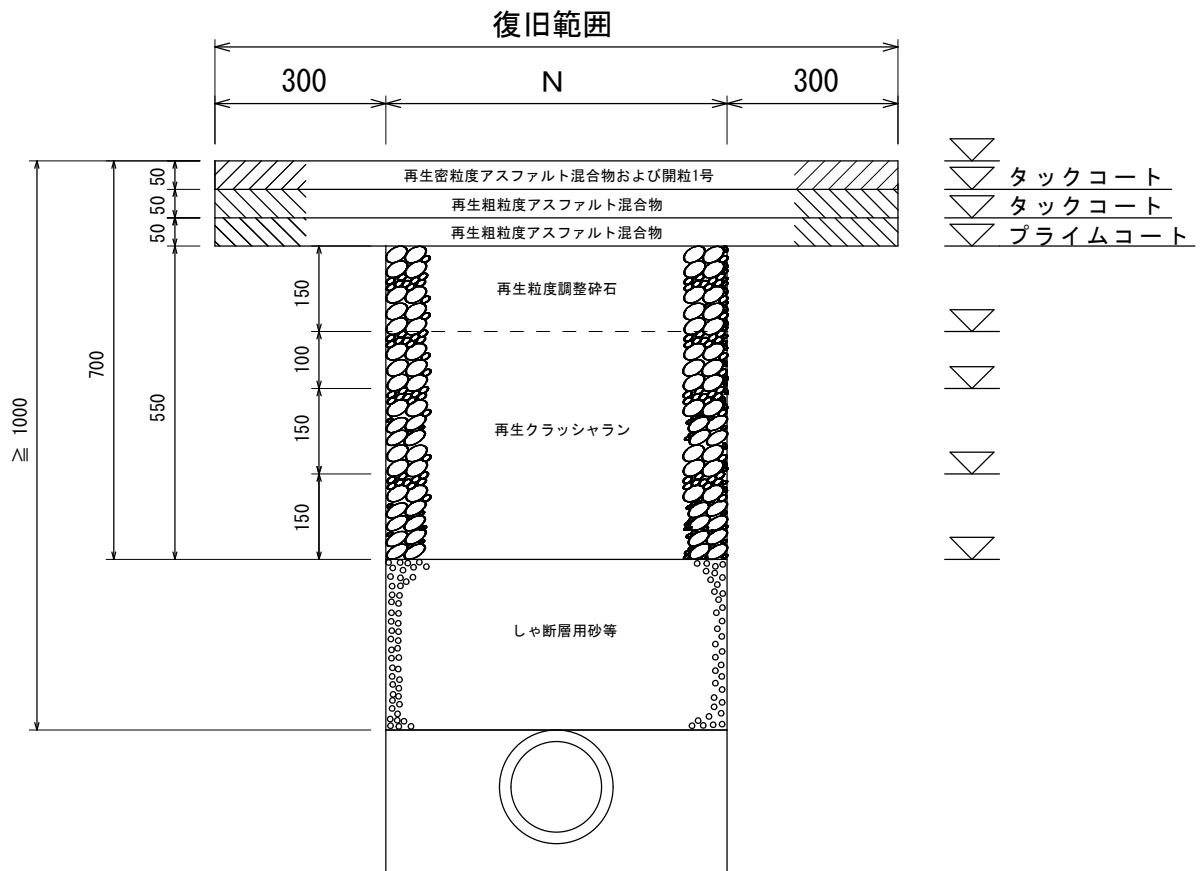
基層は再生粗粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシュランを3層に敷均し、転圧して厚さ40cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(5) アスファルトコンクリート舗装70型・アスファルトコンクリート舗装70型(すべり止め舗装)



材料表 (1 m ² 当り)					
工種	材 料		形状寸法	数量	単位
表層	再生アスファルト混合物		R密粒	0.1175	t
			開粒1号	0.0970	
	アスファルト乳剤	ゴム入りアスファルト乳剤	PK-4	PKR 1~2	0.8600
基層	再生アスファルト混合物		R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤		PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物		R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤		PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石		RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシュラン		RC-40	0.4000	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

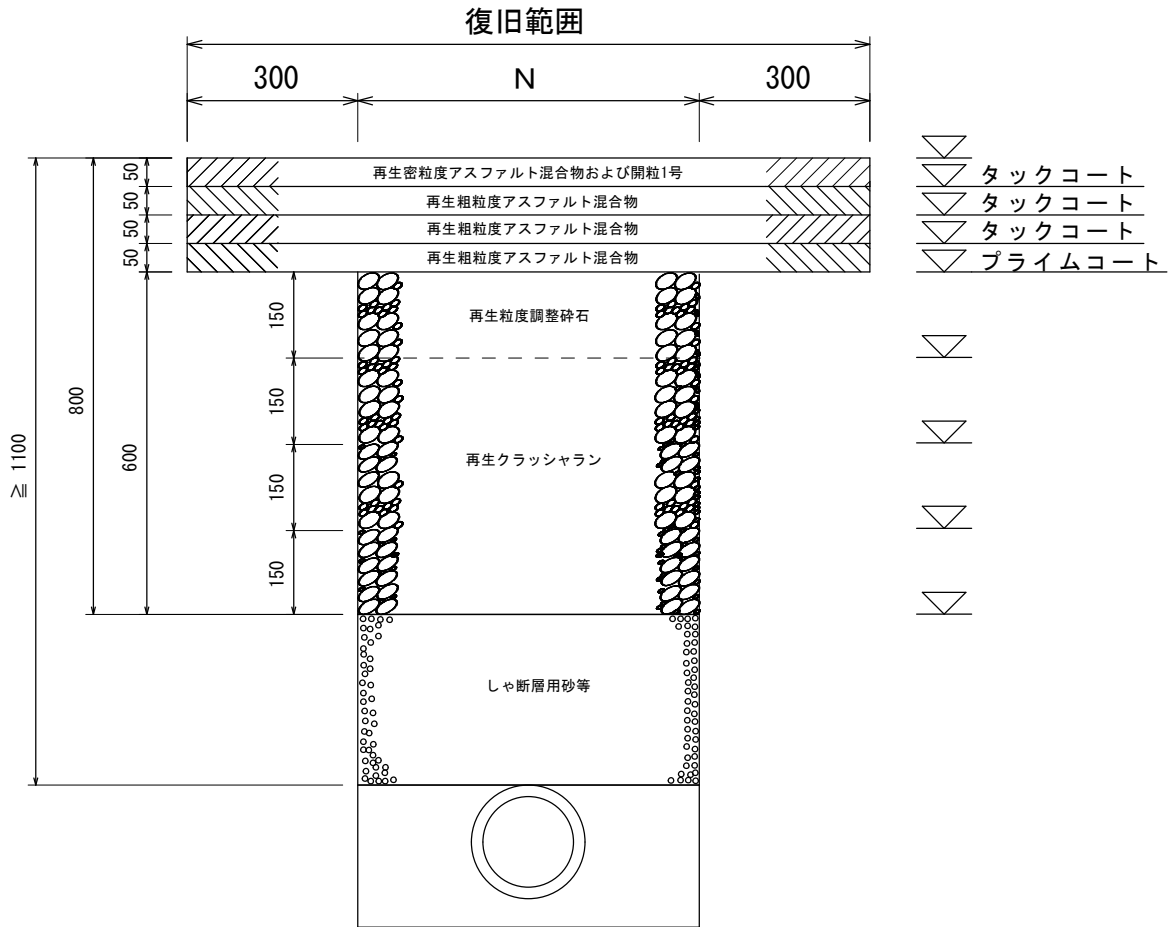
基層は再生粗粒度アスコンを2層に敷き均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシュランを3層に敷均し、転圧して厚さ40cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

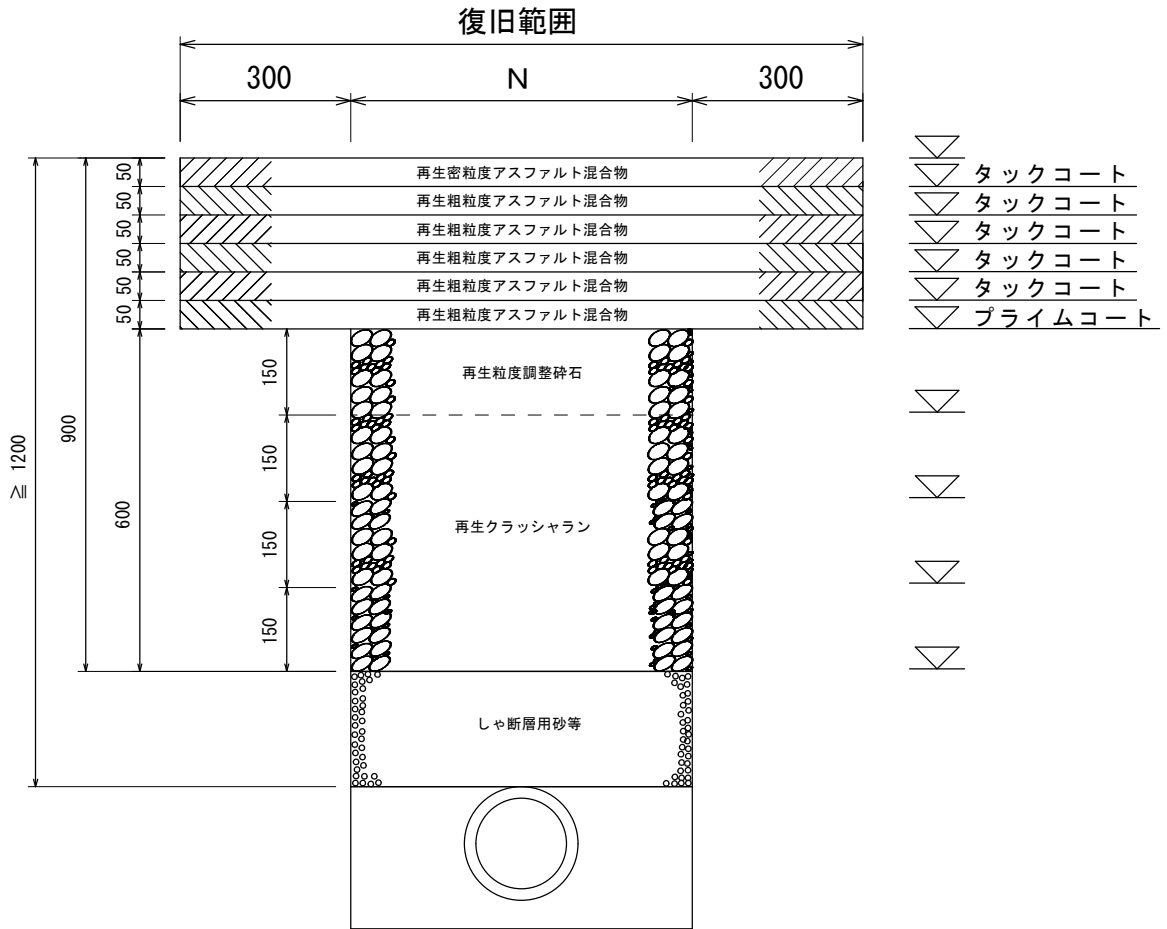
(6) アスファルトコンクリート舗装80型・アスファルトコンクリート舗装80型(すべり止め舗装)



材料表 (1 m ² 当り)					
工種	材 料	形状寸法		数量	単位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒		0.1175	t
		開粒1号		0.0970	
	アスファルト乳剤	ゴム入りアスファルト乳剤	PK-4	PKR 1~2	0.8600
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒		0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4		0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒		0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4		0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒		0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3		1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40		0.1500	m ³
	再生クラッシュラン	RC-40		0.4500	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。
 基層は再生粗粒度アスコンを3層に敷き均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。
 上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。
 下層路盤は再生クラッシュランを3層に敷均し、転圧して厚さ45cmに仕上げる。
 路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

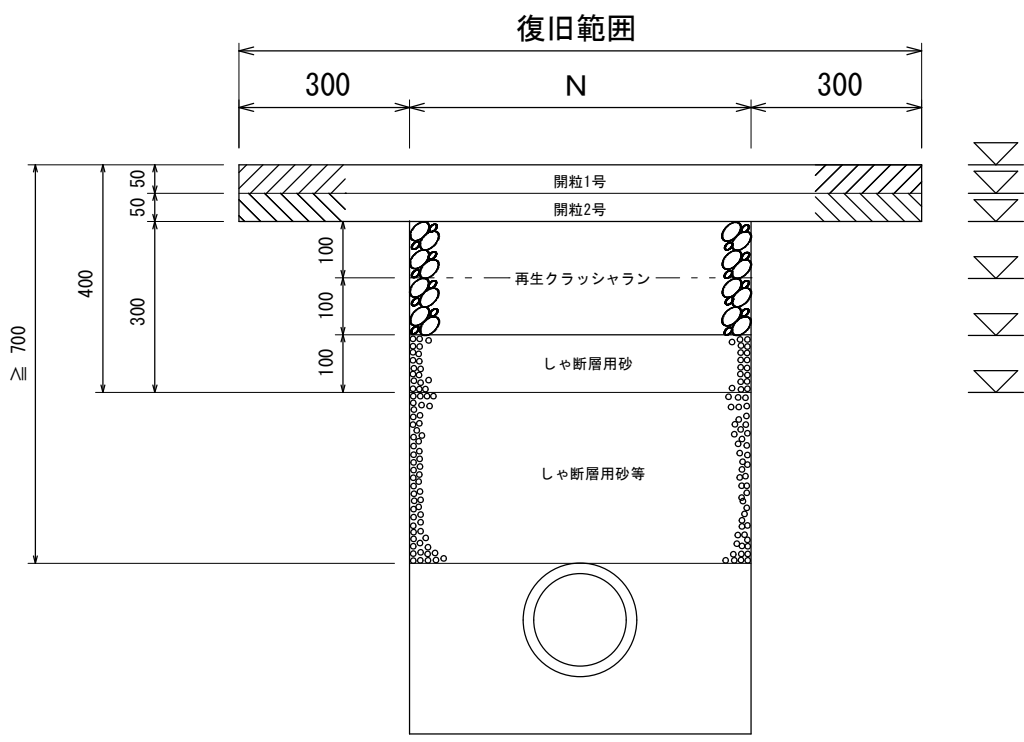
(7) アスファルトコンクリート舗装90型



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数量	単位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシャラン	RC-40	0.4500	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。
 基層は再生粗粒度アスコンを5層に敷き均し、転圧して厚さ25cmに仕上げる。
 上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。
 下層路盤は再生クラッシャランを3層に敷均し、転圧して厚さ45cmに仕上げる。
 路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(8) アスファルトコンクリート舗装 40型 (透水性)



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位
表層	アスファルト混合物	開粒1号	0.0970	t
基層	アスファルト混合物	開粒2号	0.0970	t
路盤	再生クラッシュラン	RC-30	0.2000	m ³
	砂	しゃ断層用	0.1000	m ³

表層は開粒アスコン1号を使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

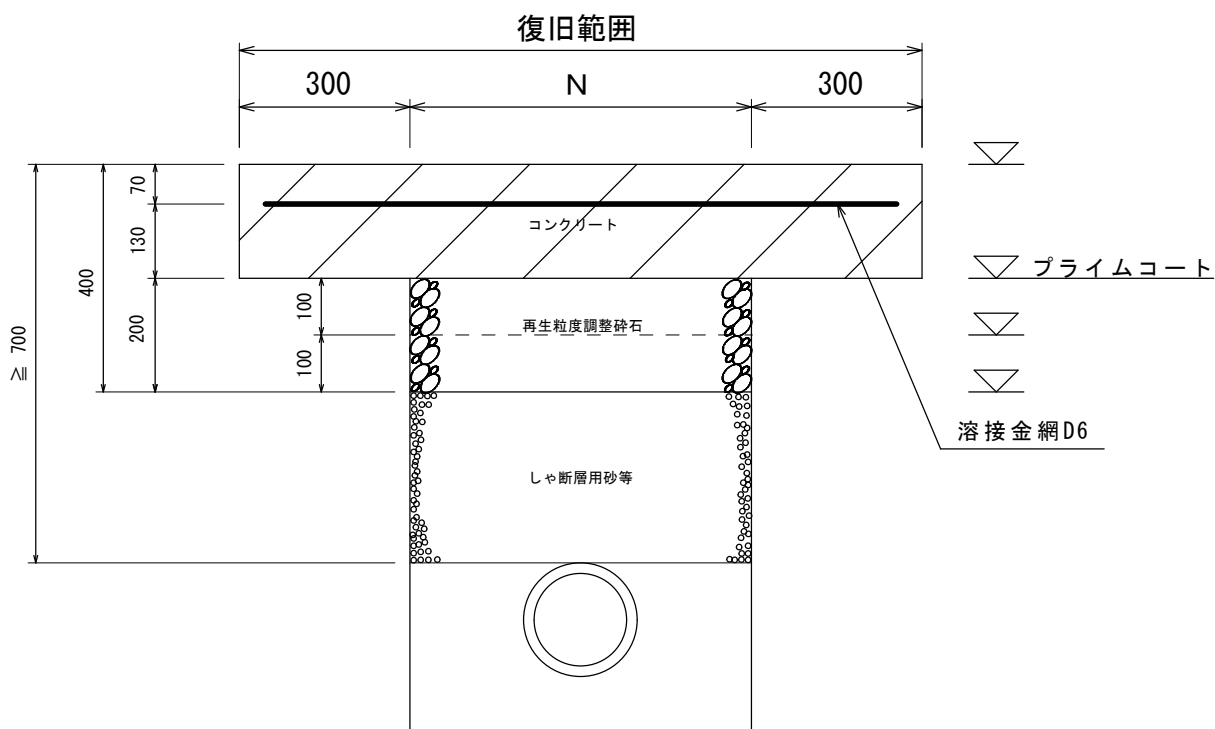
基層は開粒アスコン2号を使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

路盤は再生クラッシュランを2層に敷均し、転圧して厚さ20cmに仕上げる。

路床はしゃ断層用砂を敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(9)セメントコンクリート舗装 40型 (真空工法)



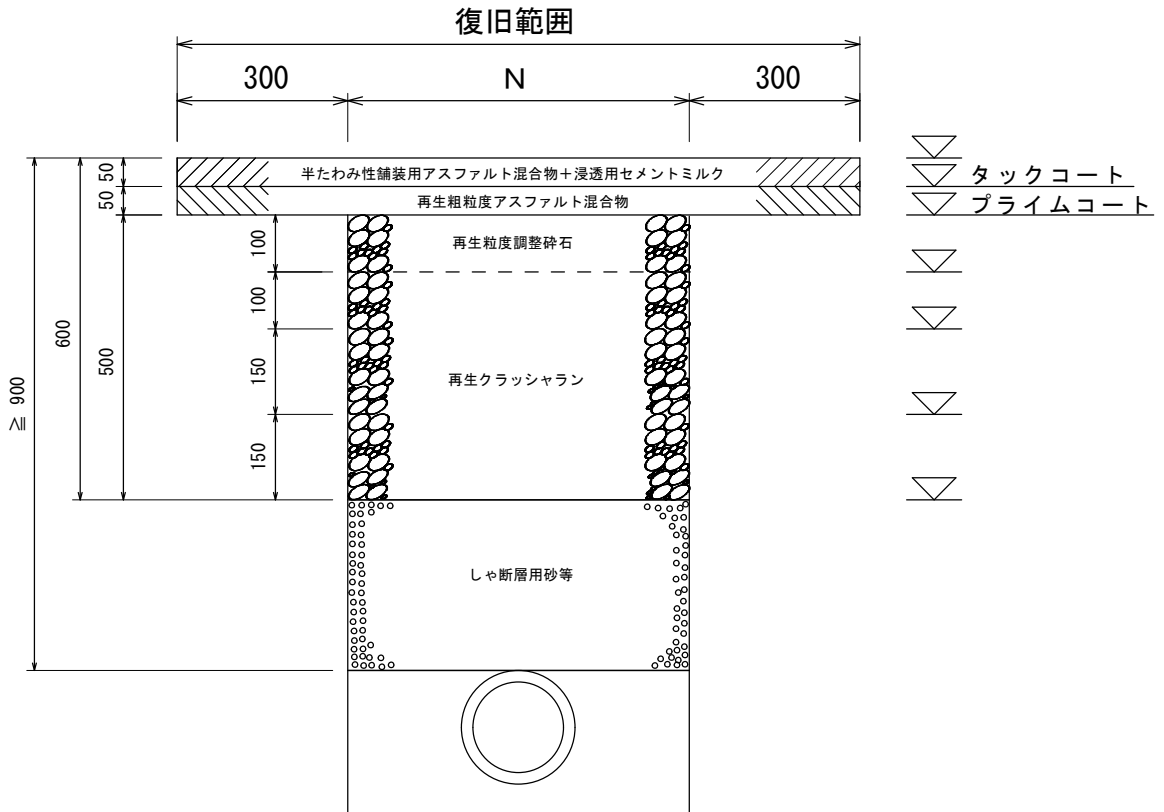
材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数量	単位
表層	コンクリート	H302B	2.0000	m ³
	溶接金網	□15cm、D6	1.0000	m ²
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.2000	m ³

表層はセメントコンクリートを使用し、路面下7cmの位置に溶接金網を設置し真空工法により厚さ20cmに仕上げる。

路盤は再生粒度調整碎石を2層に敷均し、転圧して厚さ20cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(10) 半たわみ性舗装 60型



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位
表層	浸透用セメントミルク		12.600	L
	半たわみ性アスファルト混合物		0.0970	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1000	m ³
	再生クラッシュラン	RC-40	0.4000	m ³

表層は半たわみ性アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げ、浸透用セメントミルクを注入する。

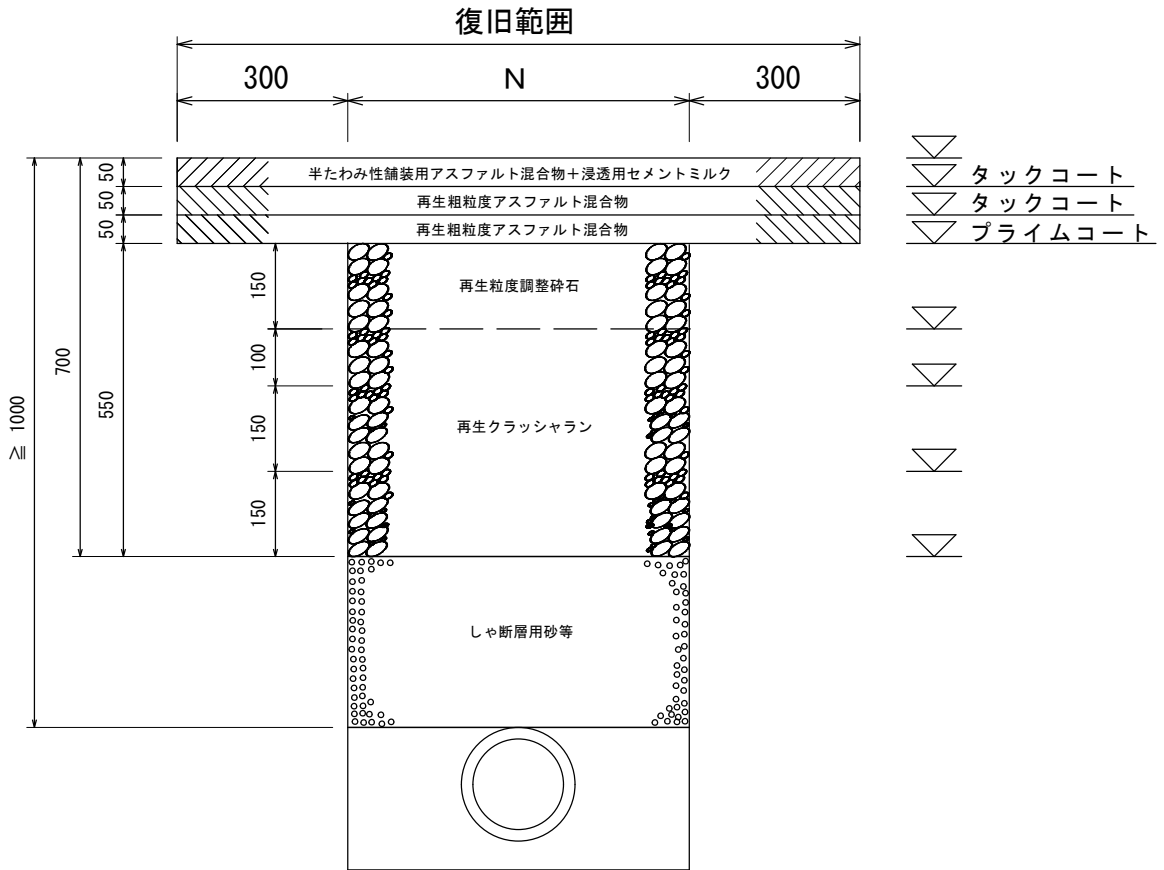
基層は再生粗粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシュランを3層に敷均し、転圧して厚さ40cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(11) 半たわみ性舗装 70型



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数量	単位
表層	浸透用セメントミルク		12.600	L
	半たわみ性アスファルト混合物		0.0970	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシャーラン	RC-40	0.4000	m ³

表層は半たわみ性アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げ、浸透用セメントミルクを注入する。

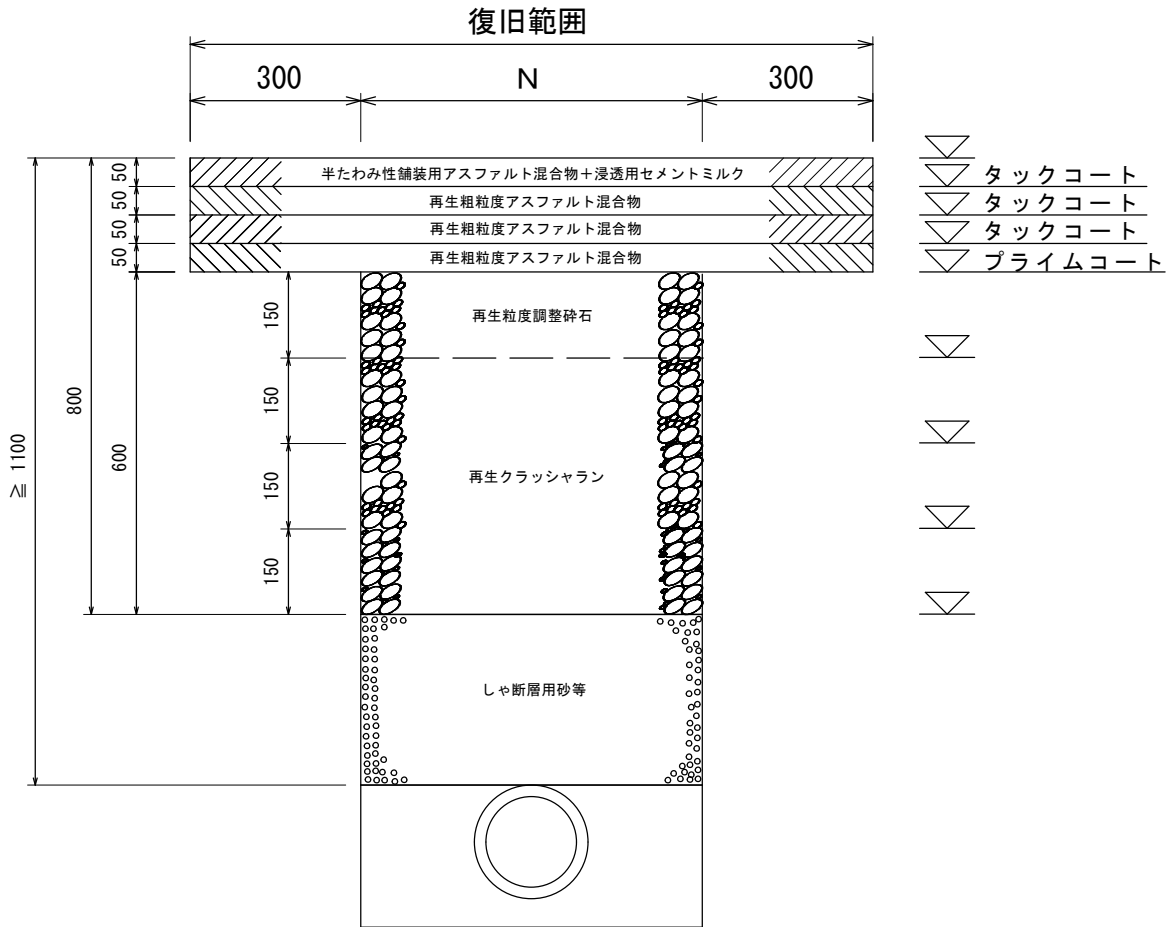
基層は再生粗粒度アスコンを2層に敷き均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシャーランを3層に敷均し、転圧して厚さ40cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(12) 半たわみ性舗装 80型



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位
表層	浸透用セメントミルク		12.600	L
	半たわみ性アスファルト混合物		0.0970	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシュラン	RC-40	0.4500	m ³

表層は半たわみ性アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げ、浸透用セメントミルクを注入する。

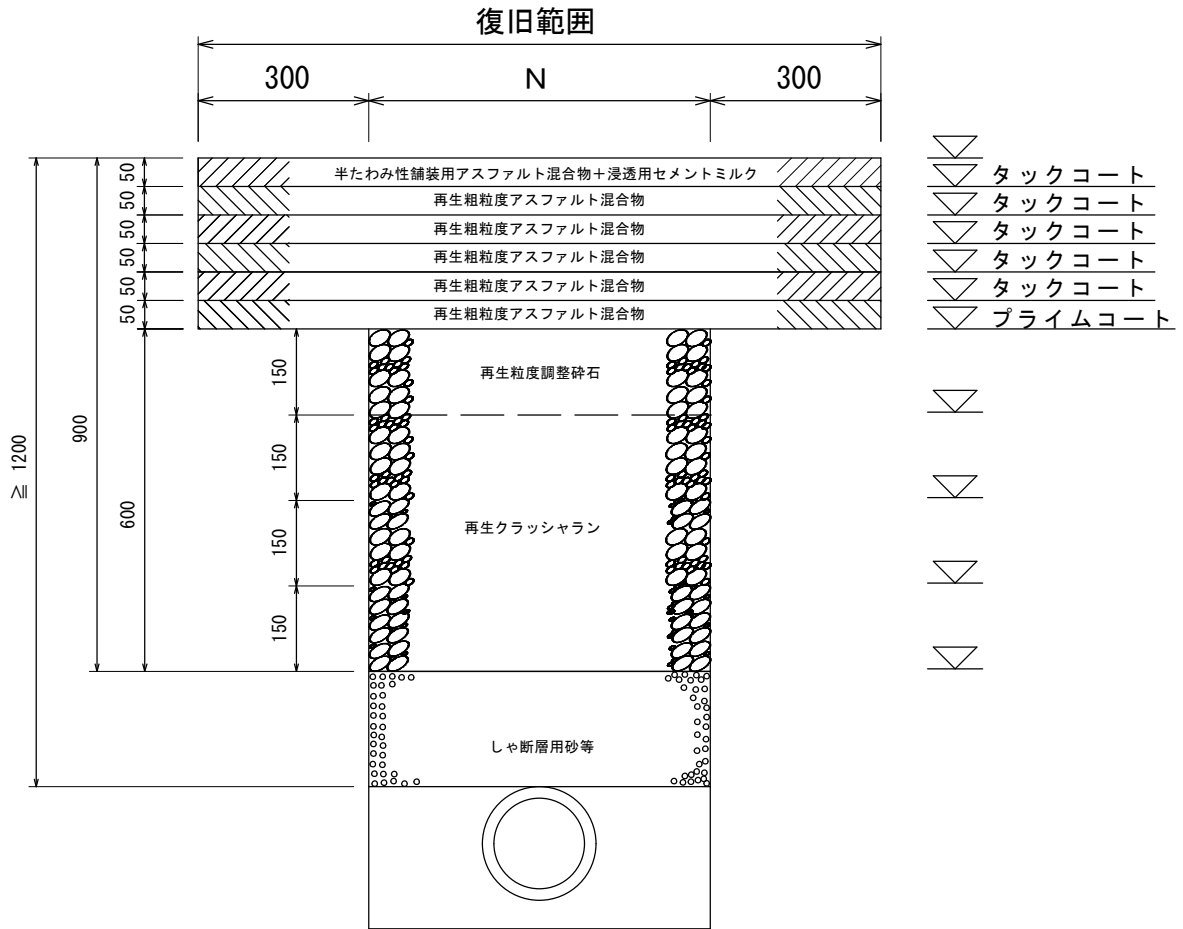
基層は再生粗粒度アスコンを3層に敷き均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシュランを3層に敷均し、転圧して厚さ45cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

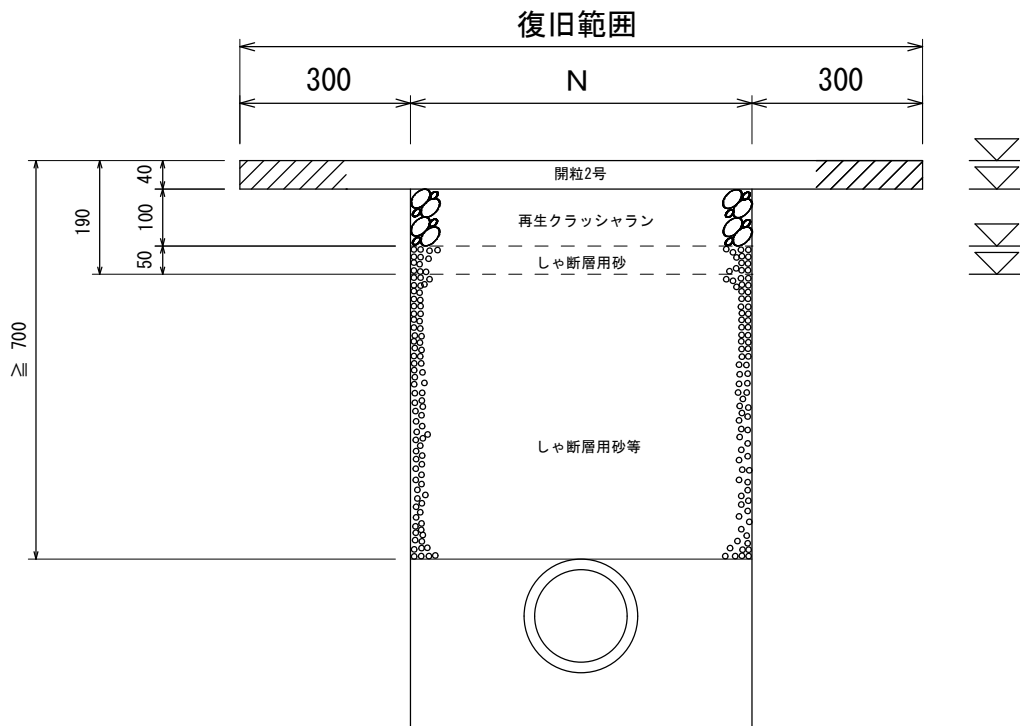
(13) 半たわみ性舗装 90型



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数量	単位
表層	浸透用セメントミルク		12.600	L
	半たわみ性アスファルト混合物		0.0970	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシャーラン	RC-40	0.4500	m ³

表層は半たわみ性アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げ、浸透用セメントミルクを注入する。
 基層は再生粗粒度アスコンを5層に敷き均し、転圧して厚さ25cmに仕上げる。
 上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。
 下層路盤は再生クラッシャーランを3層に敷均し、転圧して厚さ45cmに仕上げる。
 路盤以下は、最適含水比のしゃ断用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(14) 歩道アスファルトコンクリート舗装 19型 (透水性)



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位
表層	アスファルト混合物	開粒2号	0.0776	t
路盤	再生クラッシャーラン	RC-30	0.1000	m ³
	砂	しゃ断層用	0.0500	m ³

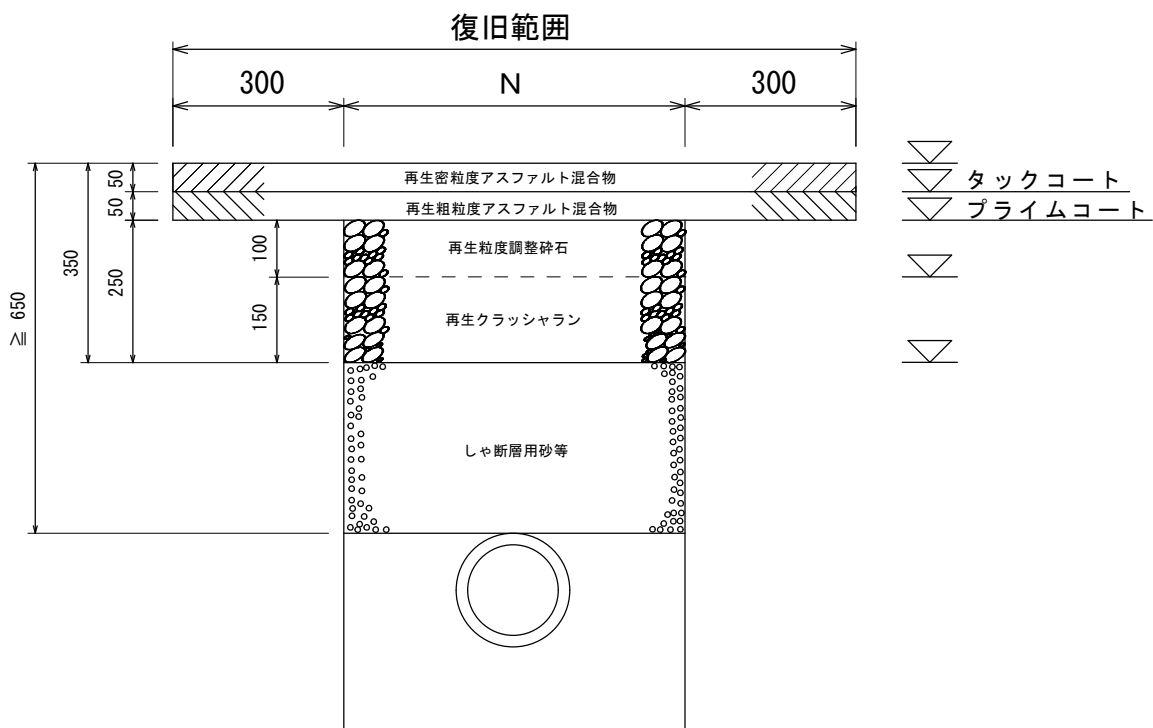
表層は開粒アスファルト2号を使用し、転圧して厚さ4cmに仕上げる。

路盤はクラッシャーランを敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

路床はしゃ断層用砂を敷均し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断層用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(15) 歩道アスファルトコンクリート舗装 35型 (切下げ部)



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数量	単位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.1000	m ³
	再生クラッシャーラン	RC-40	0.1500	m ³

表層は再生密粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

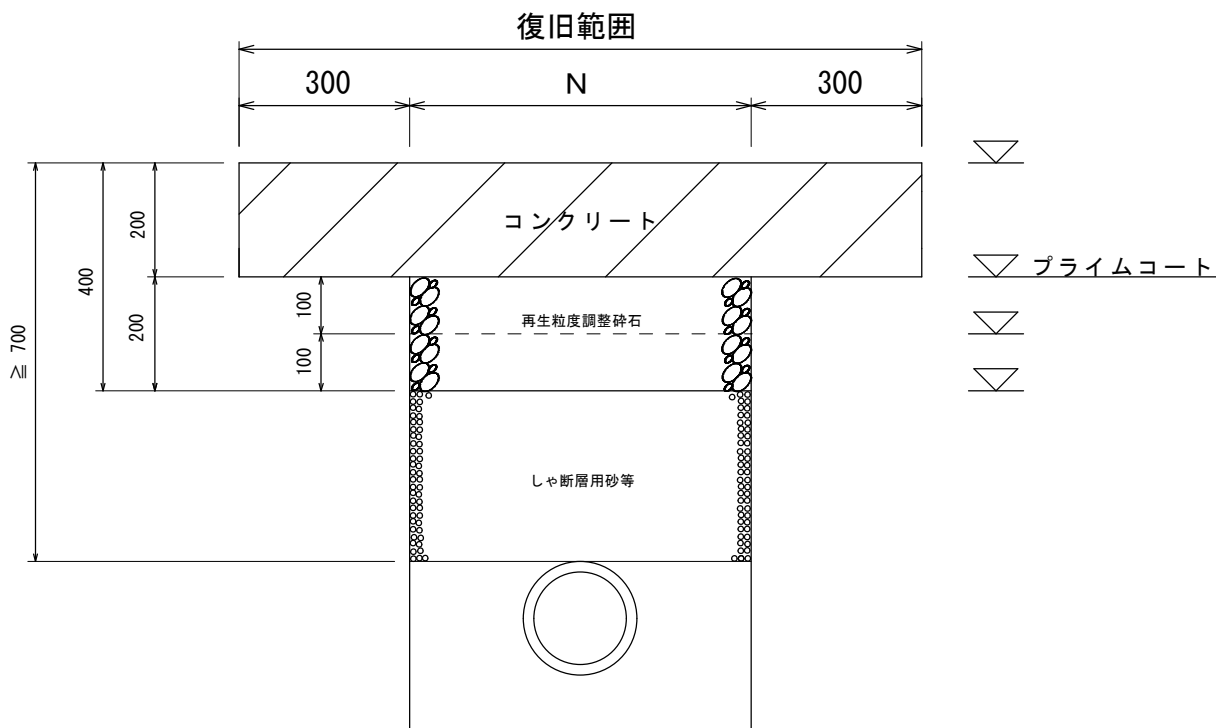
基層は再生粗粒度アスコンを使用し、転圧して厚さ5cmに仕上げる。

上層路盤は再生粒度調整碎石を敷均し、転圧して厚さ10cmに仕上げる。

下層路盤は再生クラッシャーランを敷均し、転圧して厚さ15cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断層用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

(16) セメントコンクリート舗装 40型 (切下げ部)



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形 状 寸 法	数 量	単 位
表層	コンクリート	H212B	0.2000	m ³
	アスファルト乳剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度調整碎石	RM-40	0.2000	m ³

表層はセメントコンクリートを使用し、厚さ20cmに仕上げ、表面はハケ引き仕上げとする。

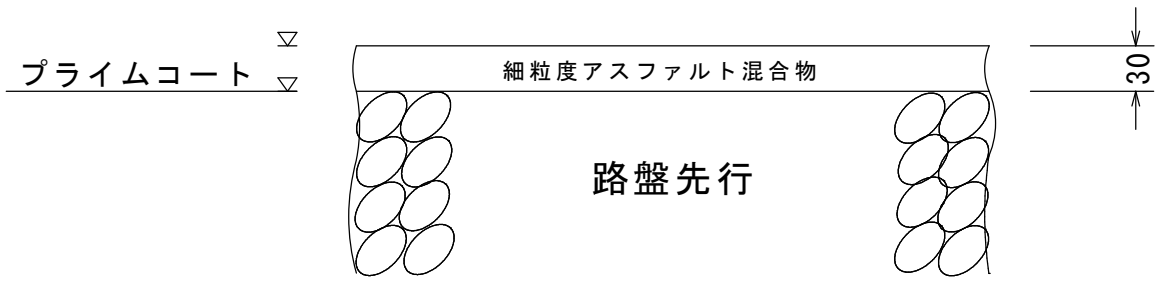
路盤は再生粒度調整碎石を2層に敷均し、転圧して厚さ20cmに仕上げる。

路盤以下は、最適含水比のしゃ断層用砂等を埋戻し、30cm毎に十分締め固める。

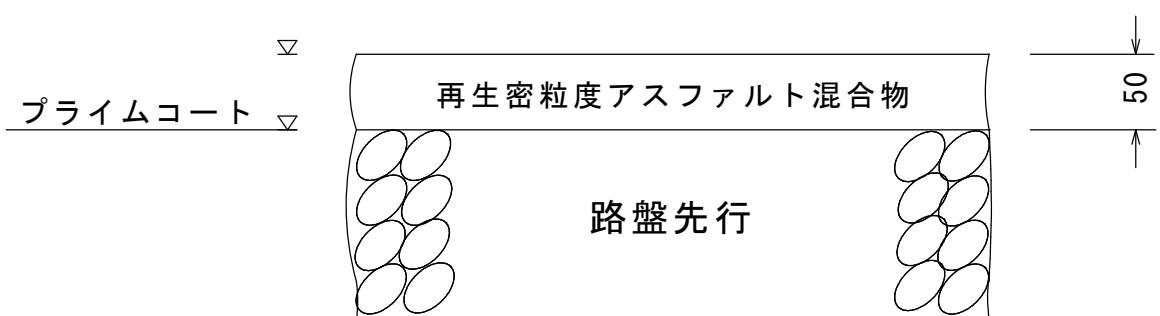
(17) その他特殊舗装については、別途協議とする。

別記 8 仮復旧の構造（自費）

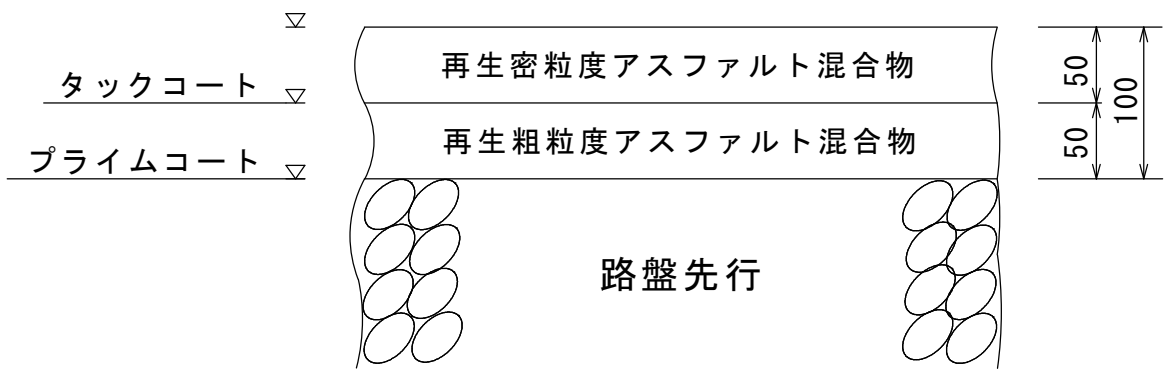
（総厚25cm以下に適用）



（総厚26cm以上69cm以下に適用）



（総厚70cm以上に適用）



別記 9 仮舗装の種別（受託）

車道 {仮舗装（薄層）}

- (1) アスファルトコンクリート舗装 25型
- (2) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め） 35型
- (2) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め） 50型
- (4) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め） 60型
- (5) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め） 70型
- (6) アスファルトコンクリート舗装・アスファルトコンクリート舗装（すべり止め） 80型
- (7) アスファルトコンクリート舗装 90型
- (8) アスファルトコンクリート舗装（透水性） 40型
- (9) セメントコンクリート舗装（真空工法） 40型

歩道 {仮舗装（薄層）}

- (10) 歩道アスファルトコンクリート舗装（透水性） 19型
- (11) 歩道アスファルトコンクリート舗装（切下げ部） 35型
- (12) セメントコンクリート舗装（切下げ部） 40型

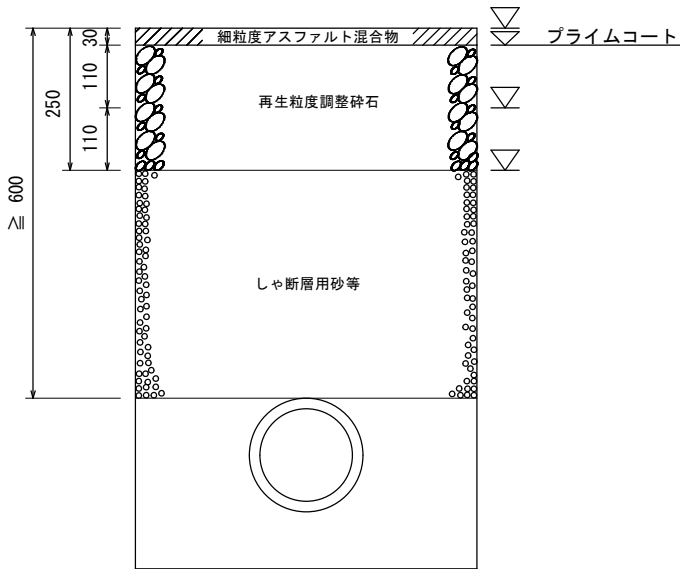
車道 {仮舗装（全層）}

- (1) 歩道アスファルトコンクリート舗装（透水性含む）
およびアスファルトコンクリート舗装25型
- (2) アスファルトコンクリート舗装35～40型
- (3) アスファルトコンクリート舗装50～60型
- (4) アスファルトコンクリート舗装70～90型

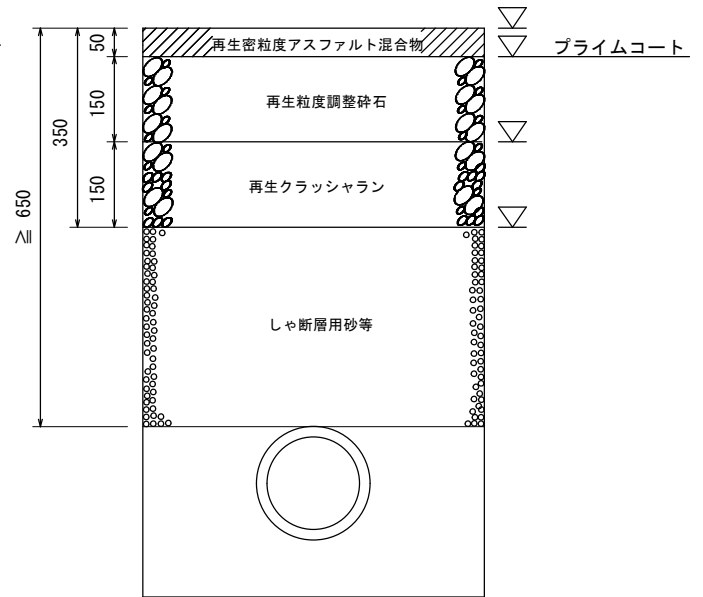
仮舗装の構造（受託）

1. 薄層舗装の場合

(1) アスファルトコンクリート舗装 25型



(2) アスファルトコンクリート舗装 35型

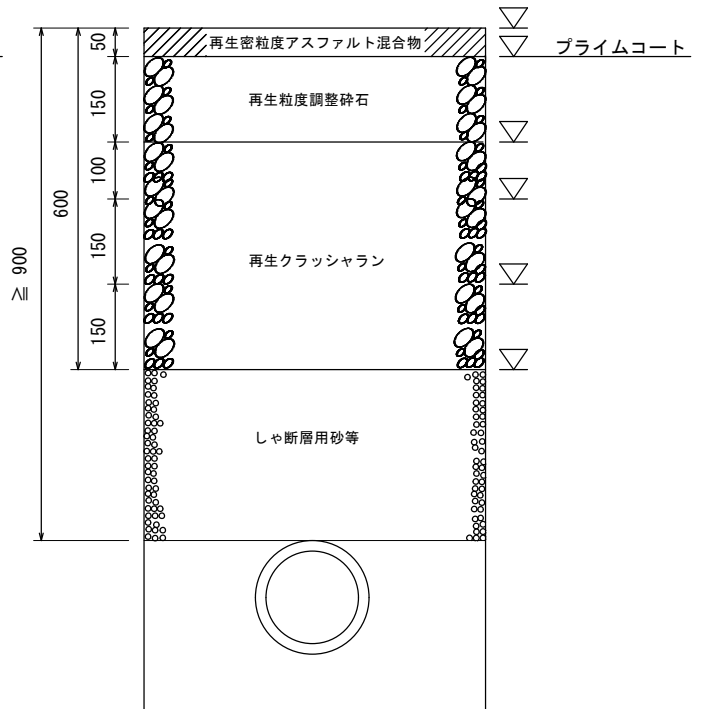
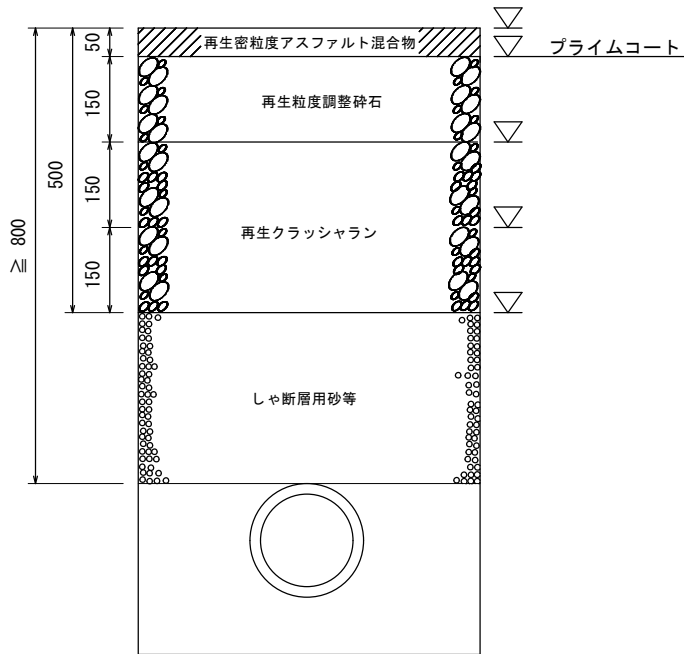


材料表（1 m ² 当り）				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	アスファルト混合物	細粒	0.0705	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度砕石	RM-40	0.2200	m ³

材料表（1 m ² 当り）				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度砕石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシャー	RC-40	0.1500	m ³

(3) アスファルトコンクリート舗装 50型

(4) アスファルトコンクリート舗装 60型

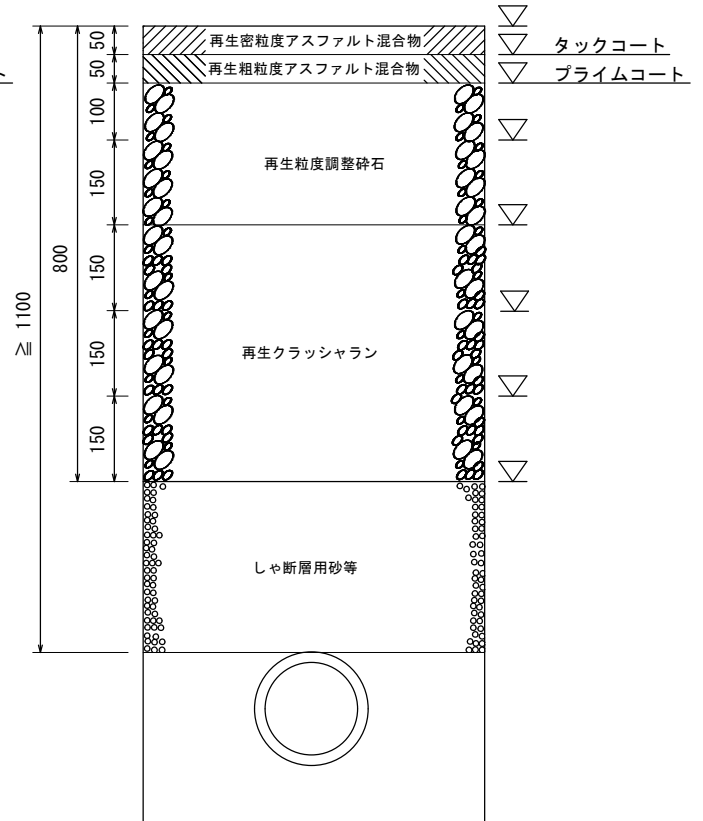
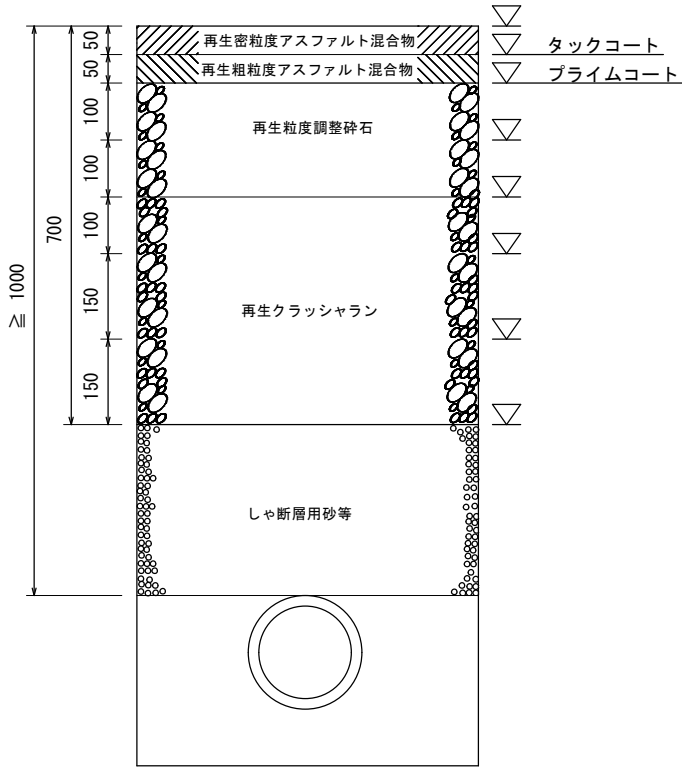


材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合料	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度碎石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシュラン	RC-40	0.3000	m ³

材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合料	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度碎石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシュラン	RC-40	0.4000	m ³

(5) アスファルトコンクリート舗装 70型

(6) アスファルトコンクリート舗装 80型



材料表 (1 m²当り)

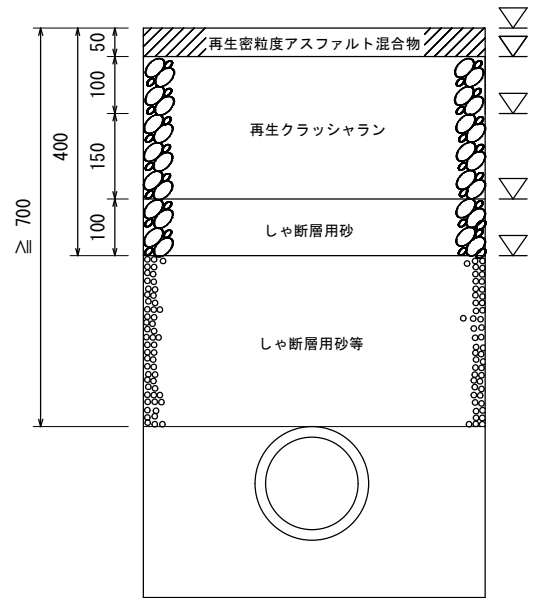
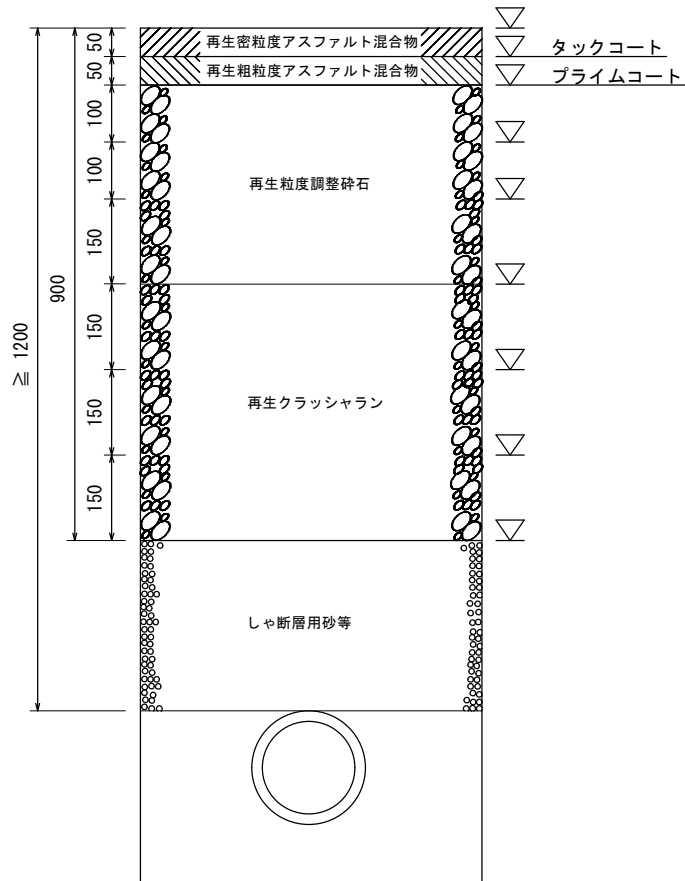
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度石	RM-40	0.2000	m ³
	再生クラッシャーラン	RC-40	0.4000	m ³

材料表 (1 m²当り)

工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度石	RM-40	0.2500	m ³
	再生クラッシャーラン	RC-40	0.4500	m ³

(7) アスファルトコンクリート舗装 90型

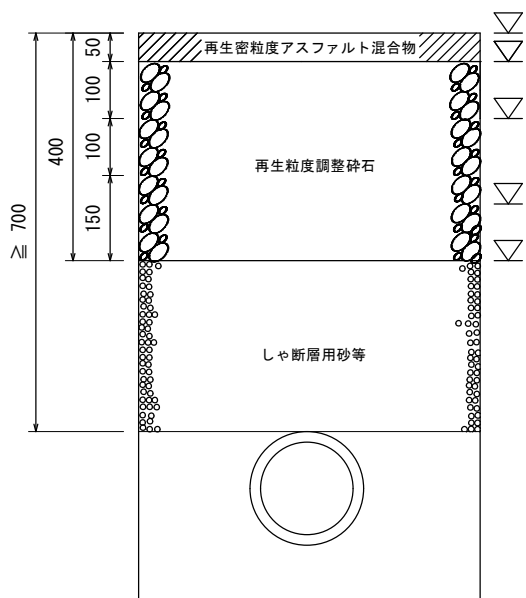
(8) アスファルトコンクリート舗装 40型
(透水性)



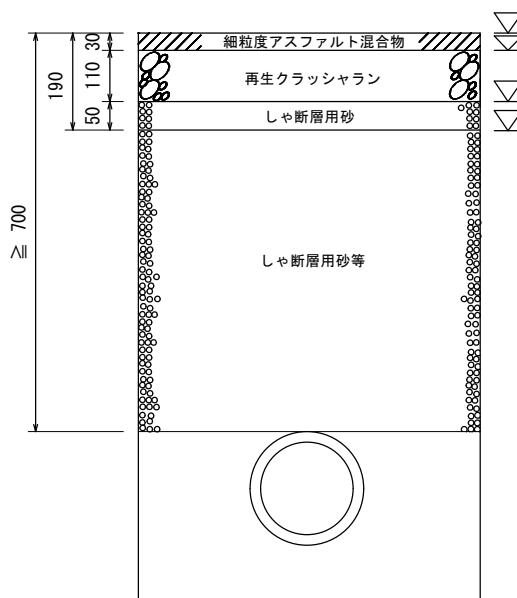
材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度石	RM-40	0.3500	m ³
	再生クラッシャー	RC-40	0.4500	m ³

材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
路盤	再生クラッシャー	RC-30	0.2500	m ³
	砂	しゃ断層用	0.1000	m ³

(9) セメントコンクリート舗装 40型
(真空工法)



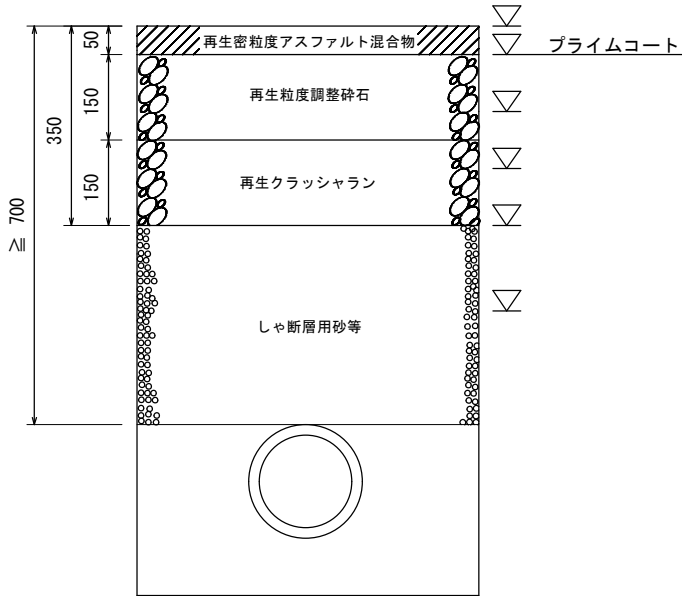
(10) 歩道アスファルトコンクリート舗装 19型
(透水性)



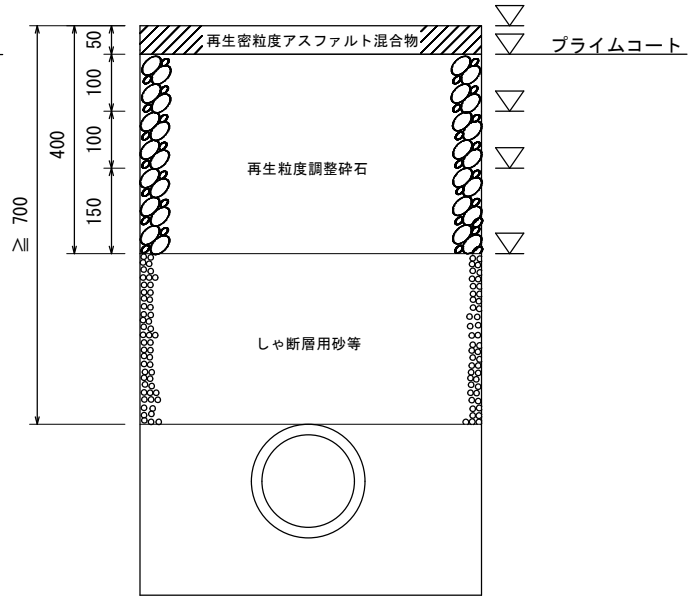
材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度砕石	RM-40	0.3500	m ³

材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	アスファルト混合物	細粒	0.0705	t
路盤	再生クラッシャーラン	RC-30	0.1100	m ³
	砂	しゃ断層用	0.0500	m ³

(11) 歩道アスファルトコンクリート舗装 35型
(切下げ部)



(12) 歩道アスファルトコンクリート舗装 40型
(切下げ部)



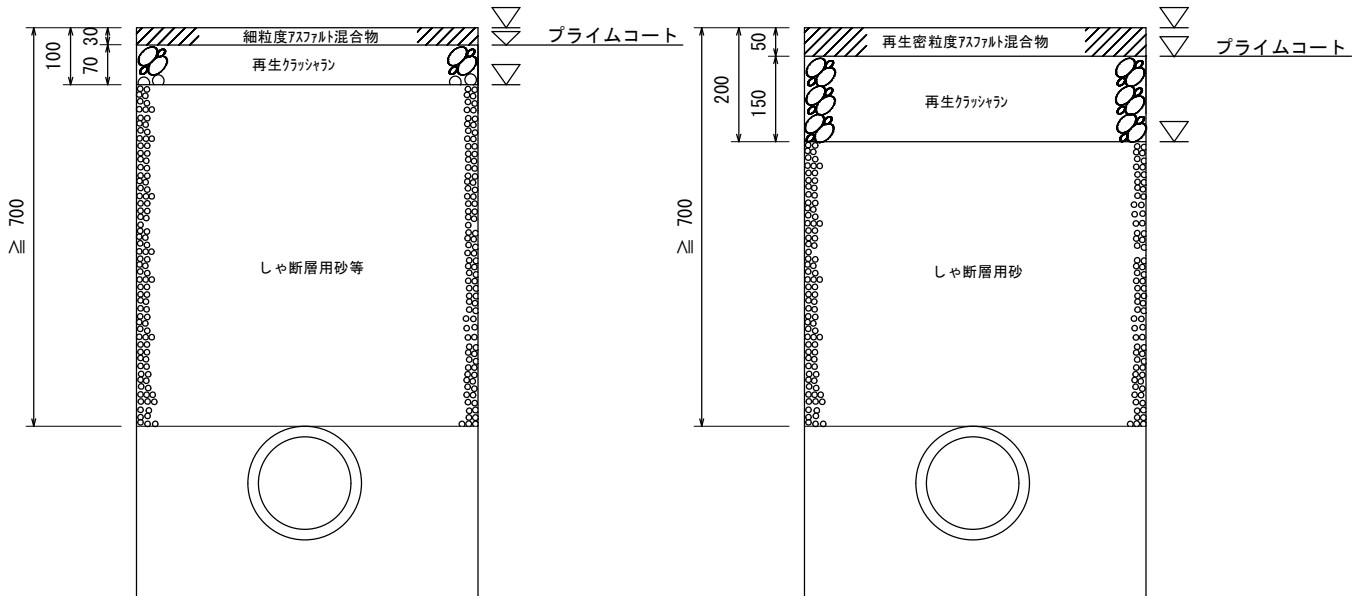
材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度石	RM-40	0.1500	m ³
	再生クラッシュラン	RC-40	0.1500	m ³

材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生粒度石	RM-40	0.3500	m ³

2. 全層舗装の場合

(1) 歩道アスファルトコンクリート舗装(透水性含む)
およびアスファルトコンクリート舗装 25型

(2) アスファルトコンクリート舗装
35~40型

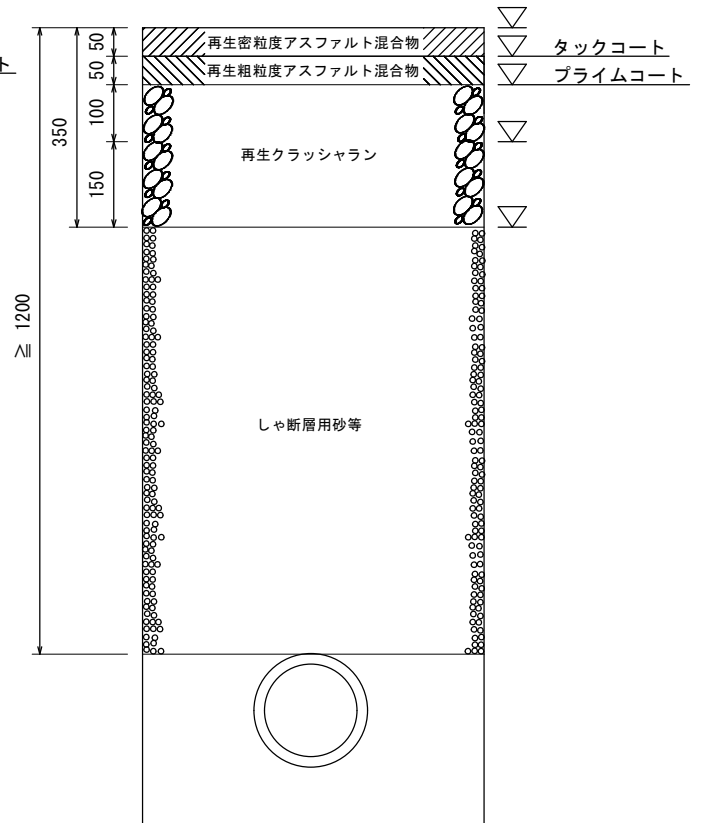
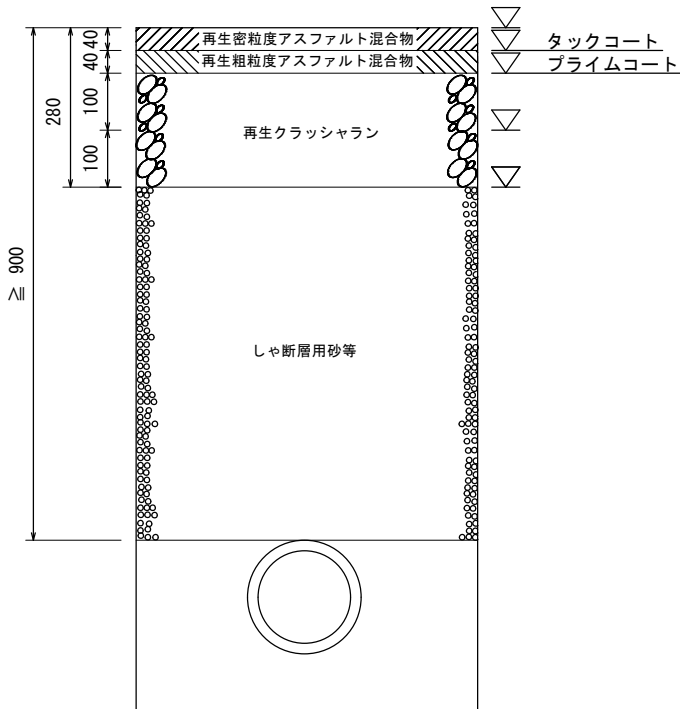


工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	アスファルト混合物	細粒	0.0705	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生クラッシュラン	RC-30	0.0700	m ³

工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生クラッシュラン	RC-30	0.1500	m ³

(3) アスファルトコンクリート舗装 50~60型

(4) アスファルトコンクリート舗装 70~90型



材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.0940	t
	アスファルト剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.0940	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生クラッシャラン	RC-40	0.2000	m ³

材料表 (1 m ² 当り)				
工種	材 料	形状寸法	数 量	単 位
表層	再生アスファルト混合物	R密粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-4	0.8600	L
基層	再生アスファルト混合物	R粗粒	0.1175	t
	アスファルト剤	PK-3	1.2600	L
路盤	再生クラッシャラン	RC-40	0.2500	m ³

別記10 企業者別の復旧部表示マーク

1 表示マーク形状

水道局 南部支所配水第一課	□ W
水道局 南部支所給水第一課漏水防止係 西部建設事務所	△ W
水道局 品川給水管工事事務所 大田給水管工事事務所	○ W
下水道局南部下水道事務所 下水道局品川出張所	○ D
下水道局第二基幹 施設再構築事務所	□ D
東日本電信電話(株)	○ T

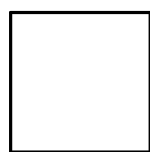
東京電力(株)東京工事センター	□ E
東京電力(株)工務部 送変電建設センター	△ E
東京電力(株)品川支社	○ E
東京ガス(株)南部導管 ネットワークセンター(本支管)	□ G
東京ガス(株)南部導管 ネットワークセンター(供給管)	○ G
東日本旅客鉄道(株)	□ L

2 表示マーク色

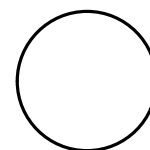
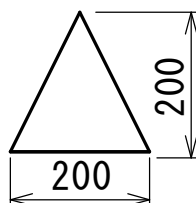
本復旧：白色

仮復旧：黄色

3 表示マーク寸法



□ 200



φ 200

別記 11 着手届

道 路 占 用

許可申請（協議）書
工 事 着 手 届

品川区長		あて		申請番号		号	
				申請年月日		年 月 日	
申請者（届出人）				連絡責任者			
住所				現場責任者			
法人名				Tel			
代表者名							
道路法第 32 条の規定により下記のとおり		申請		協議 します。			
35		提出					
新規・変更・更新・廃止		占用位置		車道・歩道・その他（ ）			
占用目的				許可（承認）番号		品 占第 号	
				許可（承認）年月日		年 月 日	
占用数量				占用期間		年 月 日から 年 月 日まで	
占用場所		品 川 区 (地先目標)		丁目 番		号地先	
復旧方法	自 費 受 託 (薄層、全層)		工事期間		年 月 日から 年 月 日まで		昼 夜 別
掘削予定面積	歩車 道別	舗 装 種 別	延 長 (m)	幅 員 (m)	面 積 (㎡)	備 考	
備 考							

工事着手年月日		年 月 日			工事竣功年月日		年 月 日					
掘削復旧面積および徴収金額 (影響面積含)	歩車道別	舗装種別	道路復旧決定面積			道路掘削徴収金額						
			延長 (m)	幅員 (m)	面積 (㎡)	単価 (円)	金額 (円)					
		計										
立会年月日			立会者	区分	所属氏名				印			
年 月 日				道路管理者								
道路掘削復旧費・監督事務費清算額												
No.	区分	復旧費 監督事務費	金額	億	千	百	十	万	千	百	十	円
案内図、位置平面図、その他必要な図面 (書ききれない場合は、別紙を添付してください)												
上記の件(許可・承認)します。								受 付				

別記 12 自費受託復旧竣工届

自費 特別区道 復旧竣工届 受託 (薄層・全層)				
申請番号			申請月日	年 月 日
許可番号	品 占 第	号	許可月日	年 月 日
工 期	着手	年 月 日	竣工	年 月 日
掘削場所	品川区			
工 種 別	昼夜別	延 長 (m)	幅 員 (m)	面 積 (㎡)
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
	昼 夜			
申請者				
立会年月日	年 月 日			
備 考			立 会 人 印	土木管理課